

**令和 2 年度
相模原市図書館事業評価**

目次

相模原市図書館事業評価について	1
令和2年度図書館事業評価	2
成果指標	3
内部評価	9
1 基本目標1 生涯にわたる豊かな学びを提供する図書館	
2 基本目標2 市民や地域に活力を与える図書館	
3 基本目標3 子どもが読書を楽しみ「生きる力」を育む図書館	
4 基本目標4 将来にわたり進化し続ける図書館	
外部評価	51
基本統計(参考)	67

相模原市図書館事業評価について

1 図書館事業評価の目的

図書館法及び「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日 文部科学省告示第 172 号）」に基づき、図書館の運営状況に関する評価を行い運営の改善を図るとともに、運営の状況に関する情報を積極的に提供することを目的とする。

2 相模原市図書館事業評価について

図書館事業評価の目的に基づき、第 2 次相模原市図書館基本計画（以下、「計画」）の進行管理として、毎年評価を実施する。

計画に掲げる各基本目標の施策に沿って取組の状況や成果等を抽出する。また、基本目標に関連する成果指標については、年度ごとに進捗状況を検証する。これらを踏まえ、総合的に各基本目標の取組や成果を評価する。

3 評価者について

職員による内部評価を行うとともに、第三者による客観的な評価として、有識者や市民公募委員等から構成される図書館協議会から外部評価を受ける。

4 利用者アンケートについて

成果指標の一つである利用者の満足度を測定するとともに、広く利用者の意見を伺い運営の改善等に生かすため、毎年利用者アンケートを実施する。アンケートは各図書館及び公民館等図書室（1 年に各区 2 室程度、交代で実施）で配布するほか、Web でも行う。

5 評価基準の設定について

評価内容を定性的に記述することに加え、計画の進捗状況を客観的に判断する目安として、次のとおり 3 段階の基準で評価する。

A：目標に沿って概ね取組を実施し、成果が見られ評価できる。

B：目標に沿って概ね取組を実施したが、成果は限られ、課題が残る。

C：一部の取組や成果は見られるが、目標全体として課題が大きい。

6 用語について

「内部評価」において、事業の実施主体を表す言葉として次の用語を用いる。

- ・ 「各図書館」：市立図書館、相模大野図書館、橋本図書館及び相武台分館の4館
- ・ 「公民館等図書室」：23の公民館図書室と串川ひがし地域センター図書室、青野原図書室をあわせた25室
- ・ 「全館」：各図書館及び公民館等図書室

上記以外で、複数の施設や個別の施設で実施した事業については、実施施設の名称を記載する。

令和2年度図書館事業評価

成果指標

1 令和2年度の実績値

指標	単位	基準値	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和9年度)	主に対応する基本目標	
1	登録状況					
	市民登録率	%	22.7	19.1	25.0	1～4
	18歳以下の子ども ¹ の登録率	%	30.4	27.5	33.0	3
	新規登録者数	人	15,839	10,565	16,200	1～4
2	来館者数	人	1,870,491	1,111,567	1,913,000	1～4
3	利用者の満足度	%	71.8	80.0	80.0	1～4
4	図書館ホームページの一日平均アクセス数	件	29,230	4,912	30,000	1～4
5	レファレンスの受付件数	件	35,870	21,170	39,000	2・4
6	地域資料の蔵書数	冊	79,010	82,357	92,500	2・4
7	一般向け講座・講演会等の参加者数	人	2,243	0	2,600	2
8	「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した小・中学生の割合	%	69.0	68.3	75.0	3

1 「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条に基づき、本成果指標の対象となる子どもの年齢を「18歳以下」としている。

2 令和 2 年度の実績値の状況

今年度は、新型コロナウイルス感染症によるまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が繰り返し発出されるという特殊な社会情勢であった。その影響を受け、全館で前年度の3月2日から6月8日まで臨時休館となり、開館日数が大きく減少した。開館再開後も、感染症拡大防止の観点から、長時間利用の抑制や座席数の削減、集会室の貸室利用の休止等、状況に応じてサービス等を縮小した。また、年間を通じておはなし会等のイベントは中止を余儀なくされた。そのため、利用者サービスに係る成果指標については、概ね基準値や前年比を下回る結果となった。

開館再開後は、一定の数値までは利用が戻ったものの、前年比で見ると低い数値のまま推移した。感染症への懸念や、自宅で過ごす時間が増えるなどの生活スタイルの変化により、来館や利用を控える利用者も一定数いると想定され、成果指標に大きく影響していると考えられる。各成果指標の状況は次のとおり。

なお、今年度の数値は新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられることから、利用者サービスに係る成果指標については、来年度以降の利用動向を注視していく。

(1) 登録状況

・ 市民登録率

内 容	市人口に占める市内在住の貸出登録者の割合（目標値：25.0%）
実績値	令和2年度：19.1% / 令和元年度：20.4%
状 況	実績値は19.1%で、市内在住の貸出登録者数は前年度から9,711人減少し、137,881人となった。市人口は722,715人で前年から微増となったため、市民登録率としては前年比で1.3ポイント減少した。 なお、市外利用者等も含めた有効貸出登録者の総数は160,746人で、前年比で見ると92.8%（12,431人の減少）となった。また、今年度内に貸出利用をした登録者は58,511人であった。市内在住者に限ると52,761人で、市人口に対する割合は7.3%であった。

・ 18歳以下の子どもの登録率

内 容	18歳以下の市人口に占める、その年代の貸出登録者の割合(目標値:33.0%)
実績値	令和2年度:27.5%/令和元年度:30.3%
状 況	<p>実績値は27.5%で、18歳以下の貸出登録者数は前年度から2,905人減少し、30,099人となった。18歳以下の市人口は微増となったため、登録率としては前年比で2.8ポイント減少した。</p> <p>年齢区分別に前年比を見ると、6歳以下(97.7%)、7~12歳(87.4%)、13~18歳(93.1%)と、概ね小学生にあたる7~12歳の年齢区分で減少幅が大きかった。その年代は、新規登録者も減少しており、登録率減少の一因と考えられる。</p>

・ 新規登録者数

内 容	当年度に新たに登録した貸出登録者の人数(目標値:16,200人)
実績値	令和2年度:10,565人/令和元年度:14,708人
状 況	<p>実績値は10,565人で、前年比で見ると71.8%(4,143人の減少)となった。</p> <p>新規登録者の内訳を年齢区分別に見ると、いずれも前年比で減少した。総数としては前年同様、橋本図書館の登録者を中心に19~29歳の年齢区分が2,497人と最も多い。また、概ね小学生の年代に当たる7~12歳の区分は前年比48.8%となり、他の区分と比べ減少幅が特に大きかった。</p>

(2) 来館者数

内 容	市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館の来館者の延べ人数 (目標値:1,913,000人)
実績値	令和2年度:1,111,567人/令和元年度:1,628,561人
状 況	<p>実績値は1,111,567人で、前年比で見ると68.3%(516,994人の減少)となった。新型コロナウイルス感染症の影響による3月2日から6月8日にかけての臨時休館が大きく影響している。また、開館再開後も前年の水準には戻っておらず、コロナ禍が続く中、来館を控える利用者も多くいたと考えられる。</p> <p>館別に来館者数及び前年比を見ると、市立図書館(343,664人/71.8%)、相模大野図書館(326,603人/68.8%)、橋本図書館(441,300人/65.4%)となっている。月別に前年比の増減を見ると、途中から開館を再開した6月、前年度がほぼ休館であった3月を除き、概ね7~8割程度で推移した。</p>

(3) 利用者の満足度

内 容	各図書館や公民館等図書室のサービスについて総合的に満足度しているかというアンケートの質問に、「満足」「やや満足」と回答した人の割合 (目標値：80.0%)
実績値	令和2年度：80.0% / 令和元年度：調査無し
状 況	実績値は80.0%で、平成30年度の基準値と比較すると8.2ポイント増加した。実績値の内訳として、1,208件の回答があったうち「満足」が32.5%(393)、「やや満足」が47.5%(574)であった。

(4) 図書館ホームページの一日平均アクセス数

内 容	図書館ホームページ(トップページ)への当該年度の総アクセス数を、年度の日数で除した件数(目標値：30,000件)
実績値	令和2年度：4,912件 / 令和元年度：26,737件
状 況	<p>実績値は4,912件で、前年比で見ると18.4%(21,825件の減少)となった。トップページへのアクセスは減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館が始まった令和2年3月には初めて1万件を下回る日も見られるようになり、4月の後半には5,000件を下回った。開館再開後はやや回復したものの、今年度全体としては概ね4,000件台で推移した。</p> <p>他方で、資料検索(詳細検索の条件入力画面)へのアクセスは増加傾向にあり、一日平均アクセス数は22,714件であった。前年比(6月～3月の平均値との比較)で見ると、367.7%と大きく増加していることから、ホームページ全体としてのアクセス数は大きく減少していない。</p> <p>臨時休館やイベント等の中止により、トップページのお知らせ等の情報にアクセスするユーザーが減少した一方で、トップページを経由せず資料検索に直接アクセスするユーザーや、SNSによるオンラインでの情報発信から情報を得るユーザーが徐々に増加したと考えられる。</p>

(5) レファレンスの受付件数

内 容	各図書館のレファレンスサービス ² の受付件数（目標値：39,000 件）
実績値	令和 2 年度：21,170 件 / 令和元年度：31,430 件
状 況	<p>実績値は 21,170 件で、前年比で見ると 67.4%と、1 万件以上減少した。減少の要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年 3 月 2 日から 6 月 8 日まで臨時休館したことと、6 月に開館を再開したことに伴いサービスを再開したものの、来館者は前年の 7～8 割に留まり、サービス利用者の割合も減少したと考えられる。</p> <p>受付方法別に見ると、対面受付については前年比 66.3%で、来館控えや長時間利用の抑制による影響が見受けられる。電話受付については、7 月の各図書館の実績値及び市立図書館の年間の実績値で前年比増となり、来館に代わり利用が伸びる傾向が一部で見られたものの、総数としては前年比 75.1%と減少した。</p>

(6) 地域資料の蔵書数

内 容	各図書館の地域資料の蔵書数（目標値：92,500 冊）
実績値	令和 2 年度：82,357 冊 / 令和元年度：80,203 冊
状 況	<p>実績値は 82,357 冊で、前年比で見ると 102.7%（2,154 冊の増加）となった。</p> <p>増加の要因として、前年と比較し、相模原市に関する地域資料の受入冊数が増えたことが挙げられる。受入資料の内訳から、地形図や市内小中学校採択教科書、各計画の策定に伴う計画書等、主に当該年度の発行物の受入が増加したことが蔵書数の増加につながった。</p> <p>なお、直近 5 年の増加冊数の平均値は約 1,500 冊で、仮に今後この増加ペースが維持できた場合は、令和 9 年度に目標値を達成できる見込みである。</p>

2 利用者の相談に応じて、必要とする資料や情報を提供する人的援助や、利用者が自分で調査する環境を整備する図書館の基本的なサービスのこと。

(7) 一般向け講座・講演会等の参加者数

内 容	各図書館の講座・講演会等参加者の延べ人数（目標値：2,600人）
実績値	令和2年度：実績なし / 令和元年度：2,130人
状 況	新型コロナウイルス感染症の影響により、講座・講演会等のイベントを中止したため、参加者数の実績は無かった。 なお、子ども向けの事業も含め、例年対面型で実施している講演会や講座の一部についてオンラインで開催するなど、新しい生活様式に合わせたイベント実施の工夫を図った。

(8) 「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した小・中学生の割合

内 容	学校教育課が実施した市内の小学5年生・中学2年生へのアンケートで、標記質問の選択肢に回答した小・中学生の割合（75.0%）
実績値	令和2年度：68.3% / 令和元年度：69.0%
状 況	実績値は68.3%で、前年比で見るとほぼ横ばいで、一定の水準を維持した。 実績値の内訳として、当該アンケートの回答では、「当てはまる」が42.7%（3,891人）、「やや当てはまる」が25.6%（2,331人）で、「当てはまる」の割合がより高かった。

内部評価

1 基本目標 1 生涯にわたる豊かな学びを提供する図書館

(1) 概要及び施策の方向

市民一人ひとりの主体的で多様な学びを提供する機能を充実するとともに、身近で誰もが利用しやすい図書館サービスを推進します。

施策の方向
蔵書の充実
利用環境の充実
より身近な図書館サービスの提供
多様な利用者に向けたきめ細かいサービスの充実
ICT ³ を活用したサービス向上

(2) 関連する成果指標

指標		単位	基準値	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和9年度)
1	市民登録率	%	22.7	19.1	25.0
	新規登録者数	人	15,839	10,565	16,200
2	来館者数	人	1,870,491	1,111,567	1,913,000
3	利用者の満足度	%	71.8	80.0	80.0
4	図書館ホームページの一日平均アクセス数	件	29,230	4,912	30,000

3 Information and Communication Technology の略語で、情報通信技術を意味する。

(3) 施策の取組状況

施策の方向	蔵書の充実
概要	<p>蔵書の収集や提供は、図書館サービスの根幹となるものです。社会の動きや市民の多様な読書・情報ニーズに対応する蔵書構築を進めるとともに、収集した蔵書がより多くの市民に利用され、読書支援や読書意欲の創出につながるよう取り組みます。</p>
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の多様な読書・情報ニーズに対応する蔵書構築 ・ 資料選定の効果的な実施(蔵書構成や利用状況の分析及び選書スキルの向上) ・ テーマ性のあるコーナー設置や排架⁴・展示の工夫 ・ 保存機能の充実に向けた検討
主な取組状況	<p>全館で資料の収集及び除籍による適切な蔵書管理を実施した。蔵書冊数は 1,454,486 冊で、前年比 99.8% (2,961 冊の減少) とほぼ横ばいであった。</p> <p>全館の資料の提供状況として、個人貸出点数は 1,954,085 点で、前年比 84.3% (362,556 点の減少) となった。延べ貸出者数は 582,738 人で、前年比 83.1% (118,371 人の減少) となった。貸出者一人当たりの貸出点数は 3.4 点で、前年の 3.3 点からほぼ横ばいであった。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により 6 月 8 日まで臨時休館とし、休館中は貸出サービスを休止した。5 月下旬からまず予約図書の貸出を、6 月から通常の貸出を再開した。</p> <p>開館再開後、貸出利用を継続している利用者の中では、貸出点数にあまり変化がなかった一方で、貸出利用を控える利用者も多く、貸出総数の減少につながっていると考えられる。</p> <p>なお、団体貸出冊数は 9,942 冊で、前年比 87.8% (1,379 冊の減少) となった。</p> <p>前述のとおり個人貸出点数は減少したが、全館の予約件数はおよそ 2.7% 増加した。政令市の約半数の図書館でも同じ傾向が見られ、予約資料に限り貸出を実施した期間があることと、各施設での滞在時間</p>

4 個々の資料を、分類記号などの所定の排列順序に基づいて、書架上に並べること。

を短縮しようという利用者の行動の傾向の表れと考えられる。

市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館では、年間を通じて、様々なテーマで展示を行い、新たな本との出会いや、知識・文化に触れる機会の提供に努めた。全体の展示回数は 165 回であった。

特に貸出冊数が多い展示として、東京オリンピック・パラリンピック特集展示「世界をひとつに Unite The World」(601 冊・市立)、ミニ展示「おはなしの絵本・紙芝居」(514 点・相模大野)、ロビーメイン展示「秋(冬)をエンジョイ！」(633 冊・橋本)が挙げられる。

< 市立図書館 >

- ・ 市立図書館では、地域資料が前年度と比較して 832 冊増加し、38,761 冊となった。地域資料は、各図書館の中で最も蔵書数が多く、市立図書館の蔵書構成上の特徴となっている。
- ・ 企画事業におけるコレクション構築として、前年度から引き続き放送大学のテキストを収集し、学び直しのニーズへの対応に努めた。蔵書数は 170 冊(前年比 149%)、貸出冊数は 709 冊(前年比 306%)であった。蔵書回転率で見ると、前年の 2.0 から 4.2 と増加しており、コレクションの利用が定着してきている。
- ・ 東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成の取組として、カウンタダウンパネルの設置と合わせ、年間を通じて 3 回の展示を行った。展示資料の貸出冊数は 814 冊(蔵書回転率 1.7)で、特に 3 回目の特集「世界をひとつに Unite The World」は 601 冊(回転率 2.3)と利用者の関心が高く、貸出冊数の増加にもつながった。

< 相武台分館 >

- ・ 貸出冊数は 79,102 冊で、前年比 90.4%と減少したものの、全館(前年比 84.3%)の傾向と比べると、減少幅は抑えられている。開館日 1 日当たりの貸出冊数を見ると、330 冊(前年比 97.6%)とほぼ横ばいであった。

また、貸出者数は 23,926 人で、前年比 87.1%と減少したものの、貸出冊数と同様に、全館の傾向(前年比 83.1%)と比べると、減少

幅は抑えられている。

<相模大野図書館>

- ・ 相模大野図書館では、児童書が 371 冊増加しており、児童サービスに力を入れている相模大野図書館の特色が維持されている。

また、平成 30 年度から取り組んでいるレクサイル指数を明示した英語多読コーナーは、オックスフォード・リーディング・ツリーシリーズを中心に、今年度は、70 冊以上購入しており、およそ累計 820 回貸し出されている。

- ・ 所蔵資料を有効に活用するため、相模大野図書館と橋本図書館で所蔵する CD や DVD の一部を、両館で交換展示及び貸出を実施し、視聴覚資料の利用の促進を図るとともに、予約ができない視聴覚資料について、他館の蔵書を借りたいというニーズへの対応に努めた。

<橋本図書館>

- ・ 発行から時間が経過した資料の再活用として、館内の展示スペースだけでなく、書架の壁面や棚の一部に展示スペースを作り、「ミニ展示」と称して随所で展示を行うことにより、普段手に取られることの少ない良書を紹介し、利用促進を図った（ミニ展示：年 7 回）。

- ・ 視覚障害や文章・文字に対して読みづらさを有する方への読書支援のためにマルチメディア DAISY（デイジー）⁵、点字やひらがなで書かれた本・雑誌、コミックエッセイ、LLブック⁶などを集めた専用コーナーを平成 30 年度に設置し、継続して読書に関するバリアを把握し、取り除く取組を行っている。

また、多言語翻訳サイト「Catalog Pocket」にて、利用案内を 10 の言語に翻訳して公開した。

5 音声だけでなく、本文のテキストと画像が音声と同期している電子図書。

6 知的障害などにより言語理解に困難がある人が、読みやすく、わかりやすいことを目指して編集された本。「LL」とは、スウェーデン語で「やさしく読める」の意味の略語。

施策の方向	利用環境の充実
概要	誰にとっても利用しやすい環境整備に努めるとともに、図書館において読書や学習活動を通じ、有意義な時間を過ごす利用も増えてきていることから、居心地の良い空間づくりなど利用環境の充実を目指します。
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な読書環境の提供 ・ ユニバーサルデザインに配慮した利用環境の整備 ・ くつろいで読み聞かせができるスペースや学習スペースの確保 ・ Wi-Fi によるインターネット環境の提供 ・ ICT を活用しながらグループでの学習や話し合いができるなど多様な活動に対応できるスペースの検討
主な取組状況	<p>安心して施設をご利用いただけるよう、入口付近への手指消毒用アルコール消毒液の設置、館内における適切な距離の確保など、各図書館で新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を徹底した。</p> <p>また、窓口業務等受託事業者の提案により、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館で空気清浄機及び図書除菌機を導入し、蔵書を安心して利用できる環境の整備に努めた。</p> <p>< 市立図書館 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時休館中に、市内企業から寄贈を受けた機器を活用して視聴覚資料の視聴席を増設し、開館再開後の利用環境の充実に努めた。 <p>< 相模大野図書館 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べものコーナーでは、直射日光が射し込み暑いとの声があったため、窓の遮熱フィルムの貼り替えを行う対策を実施した。 <p>また、児童フロアのある 4 階の多目的トイレに、おむつ交換台を設置し、乳幼児と一緒に来館する利用者の利便性を高めた。</p> <p>< 橋本図書館 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どなたにもやさしいコーナーへの誘導として、タイルカーペットによる表示を行い、利用しやすい環境を整備した。 <p>また、返却について、利便性を高めるため返却ポストを常時開ける試行を行っていたが、コロナ禍において密を避けるという意味もあり、今年度より通常化した。</p>

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 音と映像のコーナーでは、CD について、利用者が求める資料を見つけやすいように分類を細分化し、分かりやすい表示へと変更した。 |
|--|--|

施策の方向	より身近な図書館サービスの提供
概要	<p>市内では 25 の公民館等において図書室を運営しており、これらの図書室は図書館とオンラインシステム及び配送網でつなわれ、本市の図書館ネットワークにおけるサービス拠点として重要な役割を担っています。こうした公民館等図書室との連携や図書館ネットワークを強化することにより、市民にとって身近な施設における図書館サービスの向上を図ります。</p>
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館等図書室の利用促進に向けた資料選定等の支援 ・ 公民館等図書室への図書館が所蔵する資料の配本や配送システムの充実の検討 ・ 公民館等図書室の職員の研修会等の実施 ・ 図書館サービスが十分行き届いていない地域への対応として、図書受取や返却ができる場所の検討
主な取組状況	<p>公民館等図書室の利用促進に向けた市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館の取組として、それぞれが管轄している公民館等図書室に対して、資料選定等の運用支援を継続的に実施した。</p> <p>公民館等図書室の貸出冊数は 616,115 冊で、前年比 88.8%と減少したが、全体（84.3%）と比べると減少幅は抑えられている。</p> <p>< 市立図書館 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管轄している公民館図書室への支援として、星が丘公民館、陽光台公民館の各図書室との連携展示を実施した。図書館で実施した展示を図書室に展開、公民館の事業に合わせた図書室の展示を支援というそれぞれの手法で連携し、普段手にすることができない市立図書館の蔵書も含めた情報提供に協力することができた。 また、管轄している中央区の公民館図書室及び総合学習センター・視覚障害者情報センターの図書室と書面による意見交換を実施し、情報共有に努めた。 ・ 図書館職員及び公民館等図書室の職員を対象とした専門研修について、SDGs の啓発研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった。

- ・ コロナ禍で来館が難しい状況や、広い市域において図書館サービスが十分に行き届いていない地域への対応として、郵送貸出と郵送利用登録サービスの実施に向けた検討を行った(令和3年4月にサービス開始)。

<相模大野図書館>

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、管轄している公民館図書室職員の集合研修及び打ち合わせ会を実施することができなかった。
それに代えて、日常業務における疑問や意見などを書面で収集し、回答する方法をとり、図書館と公民館図書室で利用者の対応に差異が生じないように対策を講じた。

<橋本図書館>

- ・ 管轄している緑区の公民館等図書室を巡回し、蔵書構成や選定の基準、資料を活用するための展示方法について、アドバイスをを行った。
図書室職員に向けた研修については、各図書室職員の要望に沿って個別に行うことで、それぞれの図書室の問題解決と個々のレベルに合わせた研修を8つの公民館等図書室全てで実施した。
また、公民館等図書室の職員が安心して業務に従事できるよう、コロナ禍での対応について、各図書室を巡回し、状況に応じた対策や助言を行った。

施策の方向	多様な利用者に向けたきめ細かいサービスの充実
概要	<p>地域における知の拠点として、多様な市民に等しく学びの機会を提供する図書館の役割を踏まえ、各世代、障害のある方、外国人市民等それぞれのニーズに応じたサービスを関係機関・団体との連携を深めながら充実します。</p>
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各世代のニーズに対応したサービス展開 <ul style="list-style-type: none"> 若者世代 <ul style="list-style-type: none"> …若者世代の関心・課題に対応した資料・情報提供、 参加型イベントの開催、居場所づくり 子育て世代 <ul style="list-style-type: none"> …子育てに関する資料・情報提供、絵本など子どもと一緒に楽しめる資料の充実、子育て世代同士が交流できる機会・場の充実 現役世代 <ul style="list-style-type: none"> …暮らしや仕事に役立つ資料・情報提供、各種講座の実施 シニア世代 <ul style="list-style-type: none"> …就労や地域活動、生きがい・健康・趣味など生活の充実に資する資料・情報提供、各種講座の実施、居場所づくり ・ 障害のある方の利用機会の充実 <ul style="list-style-type: none"> …障害の特性等に応じた様々な形態の資料の充実や関係機関・団体との連携、利用環境の整備、円滑な利用のための支援の充実、情報通信技術の習得支援等 ・ 国際化に対応した資料や利用環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> …外国語資料や日本語学習資料の充実、館内サイン等の整備、関係機関・団体との連携 ・ 図書館・図書室への来館（室）が困難な方に向けた貸出サービスの検討
主な取組状況	<p>全館において、各世代のニーズに対応した資料の収集に努めた。</p> <p>また、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館において利用者別に館報やブックリストを発行し、図書館の蔵書の紹介等を行った。</p> <p>主に各図書館において、外国語資料として図書や雑誌等を収集した。外国語図書の蔵書数は 17,758 冊、貸出冊数は 6,003 冊となった。</p>

各図書館において、本を読むことが困難な方を対象とした資料を整備するとともに、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館で対面朗読等の一部サービスを実施した。資料整備については、朗読 CD、大活字本、布絵本、デージー等の着実な収集に努めており、各図書館の蔵書数は 11,236 点（前年から 72 点増加）となった。

また、相模大野図書館では、対面朗読サービスを実施したが、市立図書館及び橋本図書館では、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった（相模大野図書館での実績：18 回）。

新型コロナウイルス感染症の影響により、おはなし会中止の状況が続く中で、自宅においても子どもへの読みきかせの一助となるよう、幼児とその保護者向けに「おうちで楽しむミニおはなし会」等、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館が制作したおはなし会やわらべうた、人形劇などの動画を、Facebook や Twitter、市の動画配信チャンネルを利用して配信した（ミニおはなし会等の動画配信数：46 タイトル）。

< 市立図書館 >

- ・ 子どもや子育て世代を対象とした特集展示として、「見てみて！布えほん」を実施した。例年行っている大野北公民館との共催事業の「布えほんのおはなし会」が中止となったため、代替の事業として、協力団体が作製した布えほんや布おもちゃを展示した。
- ・ シニア世代を対象とした新たな取組として、オリジナル POP 作品展示「シニアのいきいき読書応援隊」を実施した。シニア世代の利用者から、おすすめの本に係るオリジナル POP 作品を募集し展示するとともに、図書館で活動するシニア世代の団体の活動を紹介した。
- ・ 読んだ本を記録できる「読書記録手帳」を作成し、登録・調べものカウンターで配布した（配布冊数 198 冊）。
- ・ 大野北地区社会福祉協議会の協力により、一人暮らしの高齢者等で図書館に来館することが困難な方に、ボランティアが図書等を自宅に届けるサービスを行った（実施回数：10 回）。

<相模大野図書館>

- ・ 子育てを頑張っている人を応援する絵本を紹介する「TLC⁷いっばいの絵本リスト」を配布し、リストにある絵本の展示も合わせて実施した。

- ・ 成人向けには、健康医療コーナーを活用し、感染症に関する正しい知識について、蔵書の展示を通して啓発を行った。

また、新刊の大活字本の展示や敬老の日にちなんで、高齢者が楽しめる本の展示を行い、シニア世代の生活の充実の一助となる資料を提供した。

<橋本図書館>

- ・ インターネット環境がなく、ホームページからの情報を得難い利用者に向けて、図書館の現状やサービスの開始等をお知らせする手書きの新聞「橋本図書館かわら版」を5回作成し、JR 横浜線・京王線橋本駅やミウイ橋本内に掲示することで情報発信を行った。

- ・ 緑区内の県立相模原総合高等学校との協働企画として、高校図書室内で実施している「Wisdom Tree」によるおすすめ本の紹介を図書館でも展示し、YA世代に向けた読書のPRを行った。

また、その展示のために来館した生徒らに対し、図書館を知ってより身近に感じてもらうきっかけづくりとして、バックヤードツアーを実施した。

- ・ 視覚障害や文章・文字に対して読みづらさを有する方への読書支援のためにマルチメディア DAISY(デイジー)、点字やひらがなで書かれた本・雑誌、コミックエッセイ、LLブックなどを集めた専用コーナーを平成30年度に設置し、継続して読書に関するバリアを把握し、取り除く取組を行っている。

また、多言語翻訳サイト「Catalog Pocket」にて、利用案内を10の言語に翻訳して公開した。【再掲】

7 Tender Loving Care の略語で、優しく愛情のこもった世話を意味する。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 図書館内に滞在する時間を短縮したい利用者のため、「あなたのために選んだ3冊」と題したイベントを行い、種々のテーマに沿って輪ゴムで束ねた3冊セットを用意し貸出を行い、展示総数 372 冊に対し、306 冊の貸出があった。 |
|--|---|

施策の方向	ICT を活用したサービス向上
概要	<p>ICT が目覚しく進歩し、市民の情報収集手段も大きく変化する中、図書館においても電子媒体による情報提供がより重要なものとなっています。</p> <p>また、IC タグ⁸による自動貸出しなど新たな技術の導入により利便性が向上することから、ICT を活用したサービスの導入について検討します。</p>
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインデータベースやインターネット上の情報資源を活用した情報提供の充実 ・ 電子書籍の導入に向けた検討 ・ デジタルアーカイブ⁹の導入に向けた検討 ・ IC タグの導入など先端技術を活用したサービスの検討
主な取組状況	<p>オンラインデータベースやインターネット上の情報資源を活用した情報提供を各図書館で実施した。インターネット利用件数は17,677件で、前年比105%と増加した。臨時休館等により提供期間は減少したものの、橋本図書館、相武台分館で増加し、全体の増加につながった。</p> <p>また、オンラインデータベースと国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用件数及び前年比は、それぞれ271件(101%)、181件(85.8%)となった。相模大野図書館で前年比168.7%と利用が増加し、オンラインデータベースについては増加につながった。</p> <p>市民が不要不急の外出を控える中で、自宅で過ごす時間が豊かなものとなるよう、青空文庫などの電子書籍、神奈川県立図書館デジタルアーカイブなどデジタルコンテンツへの外部リンクをまとめた「相模原市立図書館デジタルライブラリー～おうちでとしょかん～」を、図書館ホームページ上に開設した。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症についての適切な情報が得られるよう、国や県などの関連 Web サイトを集約し、情報提供を行った。</p>

8 電波で通信ができるタグのことで、図書館資料に貼付し、自動貸出機等の専用機器で貸出や返却ができる。

9 所蔵資料を電子化して、保存・公開するシステム。破損を恐れずインターネットで自由に閲覧することができ、地域資料・情報を広く活用又は PR する手段としても有効。

市の ICT 総合戦略とも連携しながら、電子書籍の導入及び研究事業を推進し、先進事例の調査等を行った。

また、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した IC タグの導入について検討を進めたが、導入には至らなかった。

< 相模大野図書館 >

- ・ 前年度と比べ、利用者用インターネット端末の利用は 676 件減となっているものの、有料データベースの利用が 46 件増、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用が 28 件増加した。

< 橋本図書館 >

- ・ 「レファレンス協同データベース」¹⁰については、登録した事例に多くの方からアクセスしていただいた結果、平成 21 年から 11 年連続で国立国会図書館からお礼状をいただき、今年度のアクセス数は 294,431 件に上り、調べ方マニュアルデータの累積は 36 件となった。

10 国立国会図書館が構築するレファレンス事例のデータベースシステムで、全国の参加館が登録した事例を、インターネットで検索・閲覧できる。

(4) 内部評価

【内部評価における評価の基準：B】

生涯にわたる豊かな学びを提供する図書館を目標に、蔵書や利用環境の充実等、多様な学びを提供するための基本的な取組を推進するとともに、誰もが利用しやすい図書館サービスの充実に向けて、身近なサービス拠点である公民館等図書室への支援等を実施した。

また、図書館ホームページを活用し、コロナ禍において有効と考えられる情報発信を行った。

評価の基準はBとした。概ね基本目標に沿った取組を実施し、新たな取組などの成果は見られたものの、成果指標は概ね減少したことから、成果は限られていると判断した。

施策の方向に基づく取組として、蔵書については、全館で更新・充実に努めており、参考図書や地域資料は増加した。一方で、蔵書全体としては平成30年度以降ほぼ横ばいで推移しており、保存機能も含めた量的な充実には課題が残る。

利用環境の充実については、コロナ禍においてサービスを継続するため、安心して来館し利用できる環境の整備に注力したが、充実を図るという点はあまり着手できなかった。

誰もが利用しやすい図書館サービスという観点からは、各世代のニーズに対応したより身近な図書館サービスや、ICTを活用したサービス等の提供に努めた。地域の身近なサービス拠点である公民館等図書室に対して選書等の支援を行うほか、新たな連携展示の取組を行うなど、継続的な支援を行った。

今年度の新たな取組として、サービスが十分に行き届いていない地域への対応や、コロナ禍において来館が困難な状況も踏まえ、郵送による利用登録・貸出サービスの検討を行った（令和3年4月からサービス開始）。また、Web上でアクセスできるデジタル資源や新型コロナウイルス感染症に関する情報源へのリンク集の公開、おはなし会等の動画配信を実施し、自宅での学習や情報収集の機会の提供に努めた。

成果指標の状況として、利用者の満足度は目標値並みの水準となったが、それ以外は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、基準値及び前年度との比較で減少した。臨時休館中は図書館の再開を望む意見もあり、サービス再開後は一定の利用が戻ったものの、利用を控える傾向が続いたと考えられる。安心安全への配慮や、非来館型のサービスなどの利便性向上の取組を行いながら、多様な学びの確保や、より利用しやすい図書館を目指すことで、成果指標の改善を図りたい。

2 基本目標 2 市民や地域に活力を与える図書館

(1) 概要及び施策の方向

市民の課題解決を支援するとともに、生活に役立つ情報や地域の情報を集約し提供するなど、地域における情報拠点としての機能を強化します。

また、人と本や情報を繋いだり、人と人との学びを通じた交流が生まれる場として、各種講座の実施や交流・発表の場の提供を推進します。

施策の方向
課題解決支援の充実
行政テーマと連携した情報提供・発信
地域資料の収集・活用・継承
本や人との出会い、交流の創出

(2) 関連する成果指標

指標		単位	基準値	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和9年度)
1	市民登録率	%	22.7	19.1	25.0
	新規登録者数	人	15,839	10,565	16,200
2	来館者数	人	1,870,491	1,111,567	1,913,000
3	利用者の満足度	%	71.8	80.0	80.0
4	図書館ホームページの一日平均アクセス数	件	29,230	4,912	30,000
5	レファレンスの受付件数	件	35,870	21,170	39,000
6	地域資料の蔵書数	冊	79,010	82,357	92,500
7	一般向け講座・講演会等の参加者数	人	2,243	0	2,600

(3) 施策の取組状況

<p>施策の方向</p>	<p>課題解決支援の充実</p>					
<p>概要</p>	<p>市民が必要な情報を適切に活用し、自らの生活をより豊かなものにするよう課題解決支援の充実を図ります。</p>					
<p>主な施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ レファレンスサービスの充実 （レファレンスツールの充実、職員の専門的スキルの向上、専門機関との連携等） ・ ライフステージに寄り添った情報提供の充実 （就職、スキルアップ、子育て、健康、相続等） ・ 社会問題に対応した情報提供の充実（いじめ等） ・ ビジネス支援¹¹の充実 ・ 情報活用能力向上の支援 ・ 市内・近隣大学との連携 					
<p>主な取組状況</p>	<p>レファレンスサービスにおいては、質問回答サービスとして各図書館で 21,170 件に対応し、市民の課題解決や主体的な学びを支援した。</p> <p>また、間接サービスとして、参考図書の充実をはじめ、パスファインダー「テーマ別調べ案内」の作成、レファレンス協同データベースへの事例登録、相模原市に関する新聞記事見出しの登録など、レファレンスツールの充実にも努めた。</p> <table border="1" data-bbox="464 1267 1337 1653"> <thead> <tr> <th>レファレンスツールの整備状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 参考図書の蔵書数：63,402 冊</td> </tr> <tr> <td>・ 「テーマ別調べ案内」の作成数：3 テーマ改訂 (累計 25 テーマ)</td> </tr> <tr> <td>・ レファレンス協同データベースへの事例登録数：69 件 (累計 2,546 件)</td> </tr> <tr> <td>・ 新聞記事見出し登録件数：1,936 件 (累計 31,902 件)</td> </tr> </tbody> </table> <p>メールによるレファレンスサービスについて検討を行い、令和 3 年 11 月から開始した。</p>	レファレンスツールの整備状況	・ 参考図書の蔵書数：63,402 冊	・ 「テーマ別調べ案内」の作成数：3 テーマ改訂 (累計 25 テーマ)	・ レファレンス協同データベースへの事例登録数：69 件 (累計 2,546 件)	・ 新聞記事見出し登録件数：1,936 件 (累計 31,902 件)
レファレンスツールの整備状況						
・ 参考図書の蔵書数：63,402 冊						
・ 「テーマ別調べ案内」の作成数：3 テーマ改訂 (累計 25 テーマ)						
・ レファレンス協同データベースへの事例登録数：69 件 (累計 2,546 件)						
・ 新聞記事見出し登録件数：1,936 件 (累計 31,902 件)						

11 起業や就労を目指す人等を対象に、ビジネスに係る調査や仕事、資格取得に役立つ資料・情報などを提供するほか、橋本図書館では、関係機関と連携して創業ビジネス相談会を実施している。

市内や近隣大学との連携として、市内6大学（青山学院大学、麻布大学、和泉短期大学、北里大学、相模女子大学、女子美術大学）、近隣3大学（桜美林大学、多摩美術大学、東京工科大学）との協定に基づき、資料の貸出に係る相互協力を行った。

<市立図書館>

- ・ ライフステージに寄り添った情報提供として、法律展示「遺言ってどう書くの？～民法改正に伴う相続・遺言・成年後見制度～」を実施した。県行政書士会相模原支部の協力により例年実施している法律講座について、新型コロナウイルス感染症の影響により対面での講座が開催できなかったため、遺言作成等に係る展示や電子紙芝居の上映を行った。

<相武台分館>

- ・ レファレンスの相談件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け前年比84.3%と減少したものの、各図書館の受付件数全体（前年比67.4%）と比べると、減少幅は抑えられている。

また、職員一人当たりの受付件数は421件で、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館と比べると高い傾向にある。

<相模大野図書館>

- ・ 利用者が感染症対策や健康に関する知識や理解を深めてもらうため、資料展示を行った。

また、ステイホームを充実させるのに役立つ資料の展示を行った。

- ・ レファレンスの相談件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前年度に比べおよそ4割減となった。

受付件数全体に対する電話での相談の割合は、前年と変わらずおよそ8%であった。

<橋本図書館>

- ・ 「マンツーマンOPAC講座」では、これまでOPACの使い方が分からないなどのご意見をいただいていたため、図書館をより便利に活用していただくことを目的として、資料検索や予約の方法などを1対

1で説明する機会を提供した。

- ・ 新型コロナウイルス感染症に対して、過度な不安や間違った情報に惑わされることがないように、健康情報コーナーの棚を利用し、資料の展示を行った。

- ・ 平成16年から地域経済の活性化を図るため、ビジネス支援コーナーを設置し、ビジネスに関する情報を広く提供するとともに、相模原市産業振興財団との共催で創業ビジネス相談会を実施している。

ビジネスに関する資料の収集として、今年度は、寄贈も含め378冊の資料を受け入れ、コーナー全体で11,967冊を保有し、利用に供した。

また、創業ビジネス相談会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、橋本図書館での実施ではなくオンライン開催となり、相談件数は83件に上った。

施策の方向	行政テーマと連携した情報提供・発信
概要	<p>行政施策との連携により効果的な情報提供・発信を行い、市民の暮らしや活力ある地域づくりを支援します。</p> <p>また、市政の推進に資する取組として、市職員に対しても図書館が積極的に情報提供を行うよう努めます。</p>
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康・福祉・産業振興・多文化共生などの施策との連携による情報提供（コーナー展開や図書と行政情報、講座等を組み合わせた情報提供など） ・ 市職員に対する情報提供（庁内に向けたレファレンスサービス）
主な取組状況	<p>市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館において、庁内各課機関と連携した行政テーマに係る各種展示を実施した。各行政テーマのポスターやちらし、啓発グッズ等を設置するとともに、関連する図書館の資料を展示することで、利用者が行政テーマに関する理解を深める機会の提供に努めた。</p> <p>また、貸出期限票の裏面を活用した、行政テーマの啓発支援を行った。</p> <p>本取組については、年度を通じて庁内からの問い合わせや依頼が多く、行政テーマのPR手段として定着してきている。</p> <p>今年度は、教育センターとの「さがみ風っ子教師塾」の周知、児童相談所との「里親巡回相談・体験談・啓発展示」、建築・住まい政策課と「10月4日都市景観の日」の啓発などを実施し、実施回数は、市立図書館 15 回、相模大野図書館 13 回、橋本図書館 15 回であった。</p> <p>本市が 2020 年度 SDGs 未来都市に選ばれたことを踏まえ、行政支援サービスの一環として、SDGs 推進室と連携し、SDGs の基礎的な理解を深める館内展示を市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館で実施した。</p> <p>また、市特設サイト「SDGs one by one」にて、国連広報センターの千葉潔氏のインタビュー記事を掲載するとともに、図書館のSDGs に関する取組を公開した。</p>

< 市立図書館 >

- ・ 市職員に対する情報提供の取組として、職員研修所(現人材育成課)と連携し、職員研修の各テーマに活用できる資料を選定して研修所に配架し、職員に貸出した(展示冊数 200 冊、貸出冊数延べ 44 冊)。

< 相模大野図書館 >

- ・ 新型コロナウイルスワクチン接種促進のため、会場の国民生活センターと相模大野バスターミナルを結ぶシャトルバスの運行について、入口等の掲示物により周知を行った。

施策の方向	地域資料の収集・活用・継承
概要	相模原市の文化や歴史に関する郷土資料や、本市固有の行政資料、地域刊行物など、地域の記録・情報は市民の大切な財産です。これらの収集・保存・活用を推進し、地域情報の提供・発信の拠点として、地域の文化の継承・発展に寄与します。
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資料の積極的な収集・整理・保存 ・ 地域資料の情報発信や活用推進 (公文書館、博物館等との連携や市民協働による取組、デジタル化の検討など)
主な取組状況	<p>各図書館で地域資料の収集に努め、今年度の蔵書数は 82,357 冊となり、前年比 102.7% (2,154 冊の増加) と増加した。</p> <p>増加の要因として、前年度と比較し、相模原市に関する地域資料の受入冊数が増えたことが挙げられる。受入資料の内訳から、地形図や市内小中学校採択教科書、各計画の策定に伴う計画書等、主に今年度の発行物の受入が増加したことが蔵書数の増加につながった。</p> <p>< 市立図書館 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資料の情報発信として、博物館との連携展示「神奈川の植物、相模原の植物」「無量光寺文書・山崎弁栄遺墨展」を実施した。博物館の企画展と連携し、博物館資料と、それに関連する図書館の地域資料等を展示することで、地域の歴史や文化に触れる機会の提供に努めた。 <p>< 相模大野図書館 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相模大野図書館開館 30 周年を記念して、開館当時の写真や新聞記事などを展示した。 また、特設ホームページを開設し、開館当時の様子を記録した資料をアーカイブで公開した。 ・ 秋の読書週間特別企画として「今昔物語集の世界に触れてみよう」と題し、地域在住者の制作した紙芝居などを通して、地域で活躍している人物を紹介することができた。 また、1 月には相模の大風センターから借用した風を、エントラン

スの吹き抜けから見えるよう展示し、地域文化に触れる機会とした。

< 橋本図書館 >

- ・ 児童向け郷土案内誌「発見！さがみはら」を年5回発行し、子どもだけでなく大人にもわかりやすく地域の歴史や出来事を紹介した(今度末時点での累計：72回発行)。

バックナンバー全てをホームページで公開することで、地域について調べるツールを提供するとともに、地域の様々なトピックスに関する情報の発信に努めた。

- ・ 「レファレンス協同データベース」に相模原に関する調査結果を積極的に掲載し、相模原に関する情報発信と地域資料の活用の促進を図った。

施策の方向	本や人との出会い、交流の創出
概要	<p>豊富な本や情報を有し、気軽に訪れることのできる図書館の特性を生かして、生涯学習の機会や交流・発表の場を提供します。</p> <p>また、図書館事業に関わるボランティアの養成・支援を実施します。こうした取組を通じて、多様な人が集い、学び、成果を生かす交流拠点を目指します。</p>
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ いきいきとした暮らしや新たな関心につながる講座・講演会等の実施 ・ 世代間など多様な交流の機会・場の提供 ・ 自己実現や地域活性化に資するボランティア養成・支援
主な取組状況	<p>寄贈図書や除籍資料を有効活用した本との出会いの取組として、くるくるブックコーナー等を各図書館に設置し、リサイクル図書の提供を行った（提供冊数：25,504冊）。</p> <p>市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館において、貴重な資料をできるだけ長く市民に提供できるよう、修繕ボランティアの協力を得て、専門知識が必要な本の修繕を行った。</p> <p><市立図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民団体との共催事業「図書館ひろば」について、例年、子ども向けの工作教室や布えほんを使ったおはなし会、図書修繕の実演等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、11月22日にオンラインで開催した。 <p><相模大野図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントが中止となったため、ボランティアによる「サタデーおはなし会」をZoomでオンライン配信し、ボランティア活動の支援及び発信に努めた。 <p><橋本図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、おはなし会等が開催できなくなったため、ボランティア協力の元、おはなし会の動画制作・配信を行った。

(4) 内部評価

【内部評価における評価の基準：B】

市民や地域に活力を与える図書館を目標に、レファレンスサービスを始めとした情報サービスによる課題解決等の支援や、行政施策と連携した情報提供及び情報発信、地域資料の着実な収集を行った。

また、イベント等が中止となる中で、代替の取組で可能な限り生涯学習の機会や交流・発表の場の提供に努めた。

評価の基準はBとした。イベントは中止となったものの、代替の取組も含め概ね基本目標に沿った取組を実施した。他方で、地域資料の収集で成果は見られたものの、それ以外の成果指標は減少したことから、全体として成果は限られていると判断した。

施策の方向に基づく取組として、レファレンスサービスについては、臨時休館中は実施できず受付件数は減少したが、間接サービスとしてレファレンス協同データベースや新聞記事見出し登録を継続的に行うなど、利用者が自ら調べる環境の充実に努めた。開館再開後は、月平均2,000件以上の利用があり、各図書館における専門的なサービスとして、コロナ禍においても一定のニーズが見られた。サービスの必要性を踏まえ、引き続き調べる環境を充実させるとともに、メールサービスなどの利便性向上を図り、利用の増加につなげたい。

行政施策との連携については、数年にわたり図書館の展示と連携した情報発信を積極的に展開した結果、展示件数も徐々に増加し、PRの手段として定着してきていると考えている。

また、新たな取組として、本市が推進するSDGsをテーマとした展示等を実施し、普及啓発を支援した。

コロナ禍においてイベント等が中止となり、場としての役割が限られた面もあったが、一部の対面イベントをオンライン開催で代替し、ボランティアグループや市民団体とも協力しながら、市民の交流や発表の場の提供に努めた。オンラインの活用については、対面に代わる、あるいは対面とは異なるメリットを持つ発信の手段として、今後も研究に努めたい。

成果指標の状況として、地域資料の蔵書数は着実に増加しており、地域の文化の継承という面において、各図書館はその役割を果たしている。更なる展開として、デジタル化による利活用の課題が残る。

また、利用者の満足度は目標値に達したものの、来館者数やレファレンスサービスの受付件数等、それ以外の成果指標については、基準値比及び前年比で減少した。地域の情報拠点として、引き続きレファレンスサービスなどの情報サービスによる支援の充実に努めることで、成果指標の改善を図りたい。

3 基本目標3 子どもが読書を楽しみ「生きる力」を育む図書館

(1) 概要及び施策の方向

子どもたちが、たくさんの本に出会い、その楽しさを知ることにより、読書を通して生きる力を育むことができるよう、発達段階の特徴を踏まえながら読書環境の整備を図り、自ら進んで読書に親しむ子どもの育成を推進します。

施策の方向
子どもが本にふれあう機会の充実
読書の楽しさを伝えあう取組の推進
子どもの読書応援隊の支援

(2) 関連する成果指標

指標	単位	基準値	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和9年度)
1	市民登録率	%	22.7	25.0
	18歳以下の子どもの登録率	%	30.4	33.0
	新規登録者数	人	15,839	16,200
2	来館者数	人	1,870,491	1,913,000
3	利用者の満足度	%	71.8	80.0
4	「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した小・中学生の割合	%	69.0	75.0

(3) 施策の取組状況

<p>施策の方向</p>	<p>子どもが本にふれあう機会の充実</p>
<p>概要</p>	<p>いつでも、どこでも、だれでも、読みたいとき、調べたいときに手に届くところに本があるように、子どもが本とふれあうことのできる機会を充実します。</p>
<p>主な施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもにとって身近な施設である公民館等図書室の利用促進 ・ 児童書及び青少年向け資料の充実（魅力ある蔵書構成の構築） ・ 子ども向けレファレンスサービスの充実 ・ 中学生・高校生の活動支援・居場所づくり ・ 電子書籍の導入検討 ・ 障害のある子どもが利用しやすい資料の充実及び読書環境の整備・拡充 ・ 外国につながるのある子ども¹²のニーズに合った資料及びPRの充実 ・ 子ども資料団体貸出制度¹³の活用促進に向けた配送方法の検討など学校等関係機関との連携強化
<p>主な取組状況</p>	<p>児童書の充実として、全館で資料の収集及び提供を行った。児童書の蔵書数は431,715点で、蔵書全体に占める割合は29.7%となっている。</p> <p>また、児童書の貸出点数は641,674点で、前年比84.4%(118,799点の減少)となった。</p> <p>子どもが本に触れあう機会の充実として、子ども家庭課と連携し、全館においてセカンドブック事業を実施した。2歳6か月を迎える親子を対象に、絵本の配布と図書館利用の案内を行った（配布件数2,654件）。</p> <p>子どもの図書館利用促進のため、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館において、学校からの依頼による施設見学等を受け入れた</p>

12 外国籍だけでなく、日本国籍であっても日本語以外を母語とするほか、日本語以外を母語とする保護者を持つなど、多様な文化的背景がある子ども。

13 小学校・中学校など、子どもと本を結ぶ活動を行っている団体等への支援として、児童書を中心とした資料をまとめて貸し出す制度。

(施設見学 6 校・253 人、職業体験 1 校・12 人)。

また、新たな取組として、令和 3 年 4 月入学の新一年生を対象にしたブックリストを作成し、市内小学校及び義務教育学校に配布を依頼した。

入学のタイミングでブックリストを配布することにより、読書に親しむきっかけをつくるとともに、図書館の紹介をあわせて掲載することにより、図書館への関心を深め、来館や新規登録などの利用促進に繋げることを目的とした。

児童書リサイクル事業として、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館で役割を終えた児童書を、児童関係施設等を対象に無償提供した(提供数 984 冊)。図書館で役割を終えた児童書を利活用することで、関連施設の児童書の充実を図った。

また、児童書リサイクル事業で残った資料を市内小・中学校等に提供した(提供数 19 冊)。

蔵書の紹介と利用促進を図るため、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館で子どもや中高生世代に向けた広報誌・ブックリストを作成し配布した(市立図書館：2 誌、相模大野図書館：2 誌、橋本図書館：7 誌)。

< 市立図書館 >

- ・ 子ども資料団体貸出制度の活用促進の取組として、「学校支援図書セット」¹⁴の内容の見直しを行い、小・中学校及び義務教育学校における授業や学級文庫での活用を図った(利用学校数：12 校、貸出延べ回数：14 回)。
- ・ 読んだ本を記録できる「読書記録ノート」を作成し、児童カウンターで配布した。コロナ禍において、自宅で過ごす時間が長くなる中、秋の読書週間に合わせて読書意欲の向上を図った。配布冊数は 84 冊で、当初の予定部数(70 冊)を超える利用があった。

14 学校及び学校図書館支援の一環として、市立小・中学校及び義務教育学校等を対象に、テーマごとに 30 冊程度の資料を集めたセットを整備し、申込みのあった学校へ配送している。

<相武台分館>

- ・ 年間を通じて、読んだ本を記録できる「読書手帳」を配布し、読書意欲の向上を図った。

<相模大野図書館>

- ・ 夏休み期間中に、本選びに時間がかからないよう、年代別・テーマ別に2～3冊を一組にした、「本のお楽しみセット」の貸出や、本に挟む貸出期限票の裏面を活用した「期限票くじ引き」を行い、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、短い滞在時間の中での子どもたちと新たな本との出会いを楽しめるよう演出した。

様々なテーマに合わせた児童書の展示を行い、定例のおはなし会で演じてきた絵本や紙芝居 234 点を展示し、延べ 514 点貸し出された。さらに、夏には虫や空、秋には秋の食べもの、冬には冬の遊びなどをテーマにして、季節感を大切に作る工夫も行った。

- ・ YA(ヤングアダルト)コーナーでは、ライトノベルをはじめ、人間関係や性など、10代が抱える悩みに応える図書をそろえ、中学生、高校生が必要とする情報や、青少年の情操を育むような図書を配架した。

<橋本図書館>

- ・ 中学生・高校生を対象とした YD(橋本図書館発行の中高生向け読書案内『Youthful Days』の略称)編集委員を募集し、図書館事業に関わっていただくことで、中高生自身が図書館をより身近に感じ、図書館を居場所や活動場所の1つとして認識してもらえるような取組として、編集から参加し、原稿作成から帳合まで全てを行う機関誌を発行した(年6回発行)。

また、YA(Youthful Age)コーナーでは、掲示板にポストへ投函したメッセージを掲出したり、そのメッセージに答えたりすることで中高生同士の交流の場を提供するとともに、来館者数が落ち込む中・高校生世代がより図書館を身近に感じ、来館を促すきっかけづくりとした。

施策の方向	読書の楽しさを伝えあう取組の推進
概要	読むことはもちろん、読んだときの気持ちを伝えあったり、調べたことを発表したりすることで、読書から世界が広がる楽しさを感じてもらおう取組を推進します。
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ おはなし会やブックトーク¹⁵等事業の実施・充実 ・ 親子等で楽しめる読書環境の整備・拡充 ・ 中学生・高校生を対象とした事業の拡充(ブックトークやビブリオバトル¹⁶等) ・ 子ども読書の日や読書週間等を捉えた普及啓発イベントの開催 ・ 図書館ホームページ等による読書活動に関連する情報発信 ・ 学生ボランティアの事業への参画 ・ 学生ボランティアとの協働による青少年向けコーナーの充実
主な取組状況	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、おはなし会中止の状況が続く中で、自宅においても子どもへの読みきかせの一助となるよう、「おうちで楽しむミニおはなし会」等、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館が制作したおはなし会やわらべうた、人形劇などの動画を、Facebook・Twitter・市の動画配信チャンネルを利用して配信した(ミニおはなし会等の動画配信数：46タイトル)【再掲】</p> <p>秋の読書週間を捉えた読書普及のイベントとして、各図書館で読書スタンプラリーを実施した。本や図書館に関するクイズに答え、全問正解した参加者に記念品を贈呈した。</p> <p>例年夏休みに実施していたが、感染症拡大防止の観点から時期をずらして実施した。前年の967人には及ばなかったものの、予定人数の500人を超える737人の参加があった。</p> <p>図書館ホームページでそれぞれの年代に向けたお知らせやブックリストの掲載、10代のページでのTeen s Galleryの更新などの情報発信を行った。</p>

15 グループを対象に、特定のテーマの下、数冊の本をあらすじや著者紹介等を含めて順序良く紹介するもの。

16 知的書評合戦とも呼ばれ、発表者が読んでおもしろいと思った本を一人5分程度で紹介し、全員でその発表に関する意見交換を行った後、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ。

< 市立図書館 >

- ・ アトラボはしもととの共催事業として、手作り紙芝居講座「つくっちゃおう紙芝居第6幕」をオンラインで実施した。小学1～3年生を対象に例年実施している、オリジナルストーリーによる紙芝居の制作講座で、前年度は、コロナ禍で中止としたが、今年度は、初めてオンラインでの開催を試みた（参加者数：5人）。
- ・ 学生ボランティアとの協働事業として例年、桜美林大学図書館読書運動プロジェクト実行委員会との協働によるYAコーナーの企画展示を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。
- ・ おはなし会が休止となる中、親子でおはなし会を楽しんでいただく取組として、家族で楽しむおはなし会パックの貸出を行った。年齢別におはなし会向けの絵本を選書し、2～3冊を1セットとして貸出した。用意していた60セット全てが貸出され、家庭での読み聞かせにつながる利用があった。

< 相模大野図書館 >

- ・ 中高生を対象にした投票型企画展示「この夏、どっちでひんやりする？」を7月から9月の夏休み期間に実施した。

< 橋本図書館 >

- ・ 中学生・高校生を対象に「短編小説部門」と「詩部門」の2つの分野でオリジナル作品を募集し、表彰、受賞作品は製本され図書館の蔵書となる「YA大賞」を実施した（応募総数 短編小説部門：8作品 詩部門：3作品）。

施策の方向	子どもの読書応援隊の支援
概要	子どもと一緒に読書を楽しみ、その楽しさを伝えられる大人を増やすことで、子どもの読書活動へのサポートや、本に親しむ環境づくりを推進します。
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み聞かせ講座の実施など保護者に対する読書活動への理解の促進 ・ 保護者向け読書情報の提供など家庭における読書活動への支援 ・ ボランティアとの協働によるおはなし会等の事業の開催 ・ ボランティア養成等の各種講座の開催 ・ ボランティア団体の活動情報の集約及び情報提供
主な取組状況	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、各図書館において、ボランティアの協力による対面でのおはなし会等の事業や、ボランティア養成講座は開催できなかった。</p> <p>ボランティア活動は大きく制限されたが、相模大野図書館、橋本図書館ではボランティアと協働でおはなし会の動画を配信することで、対面で実施しているおはなし会に代える活動を継続した。</p> <p><相模大野図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、定例的にボランティアサークルが実施しているおはなし会を開催することができなかったが、Zoomを活用して、読み聞かせボランティアサークルによる動画配信「サタデーおはなし会@オンライン」を3月19日・24日・26日・31日の4回実施し、ボランティア活動の場を提供した。 <p><橋本図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響によりおはなし会等の開催ができなくなり、活動の場がかなり制限されたが、ボランティアと協働で動画配信という形で活動の場を提供することができた。

(4) 内部評価

【内部評価における評価の基準：B】

子どもが読書を楽しみ「生きる力」を育む図書館を目標に、学校や関係団体とも連携しながら、子どもの読書環境の充実や、読書の楽しさを伝えあう取組について、第3次相模原市子ども読書活動推進計画と一体的に推進した。

評価の基準はBとした。おはなし会等の主な事業が休止となる中で、実施可能な手段を工夫しながら取組を進めるなど、部分的な成果は見られた。しかし、成果指標については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、基準値比及び前年比で減少したものが大部分であり、取組は実施したが成果は限られると判断した。

施策の方向に基づく取組として、児童書や中高生世代向けの資料、学校等の子どもに関連した団体向けの資料を継続的に収集し、子どもの読書環境の充実を図るとともに、展示やブックリストの配布等により、資料の利用促進に努めた。

また、学校や関係各課と連携しながら、セカンドブック事業の実施、新たな取組として市内小学校・義務教育学校への新一年生向けブックリストの配布依頼など、子どもが本や読書に触れる機会や、図書館利用につながる機会の充実に努めた。

読書の楽しさを伝えあう取組や、ボランティアグループとの協働については、おはなし会等の事業が中止を余儀なくされ、十分な取組ができなかった。そこで、それに代わる家庭での読書支援の取組として、子ども向けの本のセットの貸出や、動画によるおはなし会等の配信を行った。動画配信は初めての試みで、例年の対面による参加者数には及ばないものの、市のYouTubeチャンネルを中心に一定の再生回数があり、家庭で読み聞かせを楽しむ一助にはなったと考えている。

子ども読書活動推進計画や、本市全体の重点課題である少子化対策も踏まえると、児童書の収集やおはなし会の実施等、子どもや子育て世代へのサービスについては、各図書館で更なる取組が必要な専門的サービスと言える。引き続きコロナ禍の動向を注視しながら、休止したサービスの再開や、新たな取組の実施に向けて検討していきたい。

成果指標の状況として、利用者の満足度については、目標値並みの水準となった。

また、「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した小・中学生の割合については、ほぼ横ばいであった。それ以外の関連する成果指標については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年比及び基準値比で減少した。引き続き、子ども読書活動推進計画と連携しながら取組を推進し、成果指標の改善を図りたい。

4 基本目標 4 将来にわたり進化し続ける図書館

(1) 概要及び施策の方向

本市図書館施策を企画及び統括し、専門的業務を担う中央図書館機能の確立及び充実を図るとともに、地域図書館¹⁷においては地域に根差した図書館運営に注力し、それぞれの役割を果たすことで、社会情勢の変化や市民ニーズに的確に対応した質の高い図書館サービスの提供を目指します。

また、効果的・効率的な図書館運営により、本市図書館の将来にわたる持続可能な発展を図ります。

施策の方向
中央図書館機能の確立・充実
地域図書館における地域に根差したサービスの充実
効果的・効率的な図書館運営

(2) 関連する成果指標

指標	単位	基準値	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和9年度)	
1	市民登録率	%	22.7	19.1	25.0
	新規登録者数	人	15,839	10,565	16,200
2	来館者数	人	1,870,491	1,111,567	1,913,000
3	利用者の満足度	%	71.8	80.0	80.0
4	図書館ホームページの一日平均アクセス数	件	29,230	4,912	30,000
5	レファレンスの受付件数	件	35,870	21,170	39,000
6	地域資料の蔵書数	冊	79,010	82,357	92,500

17 市立図書館、相模大野図書館及び橋本図書館を指す。

(3) 施策の取組状況

<p>施策の方向</p>	<p>中央図書館機能の確立・充実</p>
<p>概要</p>	<p>市立図書館において、中央図書館機能を確立・充実し、時代の変化を見据えた図書館施策の企画・推進を図ります。</p> <p>また、中央図書館として相応しい資料の収集や専門的な人材の確保・育成を図ることにより、高度で専門的なニーズへの対応や、地域図書館・公民館等図書室への支援を行います。</p> <p>現施設において実現可能な中央図書館機能の充実に取り組むとともに、施設面に関わる機能について検討を進め、再整備に合わせ、中央図書館への移行を目指していきます。</p>
<p>主な施策</p>	<p>【企画・統括機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会情勢の変化や市民ニーズに的確に対応した全市的サービスの企画・推進 <ul style="list-style-type: none"> < 高齢化や本市の地域性を踏まえた図書館サービス網の充実、電子書籍、IC タグ等の導入に向けた検討 > ・ 資料の収集・保管の統括及び本市図書館全体を捉えた資料構築 <ul style="list-style-type: none"> < 資料選定の総合的コントロール、知の拠点の根幹となる資料の蓄積と継承（地域資料、ラストワン本¹⁸等） > ・ 図書館ネットワーク（電算システム・配送）の管理・運用 <ul style="list-style-type: none"> < 公民館等図書室や学校図書館への配送拠点、配送体制の強化 > ・ 関係機関、団体等との全市的な連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> < 学校等関係機関との連携強化（学校への配送、資料選定の支援等） > <p>【専門的機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 充実した資料群、設備、専門的な人材による、多様化、高度化するニーズに対応したサービスの提供と地域図書館や公民館等図書室の支援 <ul style="list-style-type: none"> < 幅広く豊かな蔵書、より専門的なレファレンスサービス（充実した参考図書、専門書、オンラインデータベース、インターネット環境、調査相談業務に関する知識や経験を備えた人材による支援）、障害のある方に向けた多様な形態の資料収集と利用環境整備の推進、外

18 図書1タイトルにつき、最後の1冊の蔵書となったものを指す。

	<p>国語資料や日本語学習資料の充実や館内サインの整備、関係機関との連携など外国人市民に向けたサービスの推進、地域図書館や公民館等図書室への蔵書や専門的人材による支援></p> <p>【人材育成機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期的な視点による専門的な人材の確保・育成 <p><専門的人材の計画的な確保・充実、図書館職員研修の充実></p>
<p>主な取組状況</p>	<p><市立図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会情勢の変化や市民ニーズに的確に対応した全市的サービスとして、郵送貸出、メールレファレンスサービス、電子書籍及びICタグの導入を検討した(郵送貸出は令和3年4月、メールレファレンスは令和3年10月に開始)。 ・ 学校との連携強化として、「学校支援図書セット」の内容の見直しを行い、小・中学校及び義務教育学校における授業や学級文庫での活用を図った。 また、司書教諭及び図書整理員研修講座(資料配布研修)において、図書館の学校向け支援について周知を行った。 ・ 図書館職員研修として、新規採用職員及び図書館に転入となった職員を対象とした図書館職員初任者研修を実施した。

施策の方向	地域図書館における地域に根差したサービスの充実
概要	地域図書館では、地域に根差した図書館運営に注力し、地域の特性を生かした事業や自館の利用者ニーズに即したサービスを推進します。
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特性やニーズ、課題に応じたサービスの充実 ・ 地域の情報拠点として市民の学びと暮らしを支える幅広い情報を提供（健康、子育て、仕事、趣味等） ・ 近隣の学校や地域団体、ボランティアと連携した事業展開 ・ 生涯学習の機会、交流・発表の場の提供 ・ 地域におけるサードプレイスとしての役割（図書館がより親しみやすい居場所となる環境づくり）
主な取組状況	<p>地域の情報拠点として、各図書館がリクエスト等を通じて地域のニーズを把握しながら蔵書構築を行うとともに、各世代や市民にとって身近なテーマに応じた配架や展示の工夫によって、分かりやすい資料提供に努めた。</p> <p>市立図書館及び相武台分館において、学習の場や交流・発表の場として活用してもらうよう、読書団体等を対象に集会室を貸出した（4/1～6/14、1/13～3/21は、新型コロナウイルス感染症の影響により貸出を停止）。</p> <p><市立図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大野北地区社会福祉協議会の協力により、一人暮らしの高齢者等で図書館に来館することが困難な方に、ボランティアが図書等を自宅に届けるサービスを行った（実施回数：10回）。【再掲】 <p><相模大野図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開館30周年を記念して、総合窓口への装飾、「予約・リクエスト受付から本が届くまで」の啓発、グリーンホール相模大野の催し物に係る関連本の展示、施設見学に代えて「夜の図書館」と題してウェブ上で施設をめぐるページを公開し、新聞記事や開館当時の写真の掲示など、地域の図書館としてのあゆみをまとめて展示した。

- ・ 市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館で実施している児童書リサイクル事業とは別に、南区内の学校図書館やこどもセンターなどに、図書館資料として役目を終えた本の提供を実施した。結果は、市内小学校 13 校とこどもセンター 1 か所に、158 冊の図書を提供した。

- ・ 相模女子大学社会マネジメント学科の学生による企画展示「旅行とグルメ」を開催し、近隣の学校との連携を図った。

< 橋本図書館 >

- ・ 平成 16 年から地域経済の活性化を図るため、ビジネス支援コーナーを設置し、ビジネスに関する情報を広く提供するとともに、相模原市産業振興財団との共催で創業ビジネス相談会を実施している。

ビジネスに関する資料の収集として、今年度は、寄贈も含め 378 冊の資料を受け入れ、コーナー全体で 11,967 冊を保有し、利用に供した。

また、創業ビジネス相談会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、橋本図書館での実施ではなくオンライン開催となり、相談件数は 83 件に上った。【再掲】

- ・ 緑区内の県立相模原総合高等学校との協働企画として、高校図書室内で実施している「Wisdom Tree」によるおススメ本の紹介を図書館でも展示し、YA 世代に向けた読書の PR を行った。

また、その展示のために来館した生徒らに対し、図書館を知ってより身近に感じてもらうきっかけづくりとして、バックヤードツアーを実施した。【再掲】

- ・ 中学生・高校生を対象とした YD（橋本図書館発行の中高生向け読書案内『Youthful Days』の略称）編集委員を募集し、図書館事業に関わっていただくことで、中高生自身が図書館をより身近に感じ、図書館を居場所や活動場所の 1 つとして認識してもらえるような取組として、編集から参加し、原稿作成から帳合まで全てを行う機関誌を発行した（年 6 回発行）。【再掲】

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 橋本商店街協同組合主催の「第9回橋本まちゼミ」に参加し、関連本の展示のほか、ミウヰ橋本内の店舗にもご協力いただき、本を2冊以上貸出した際にスタンプを押し、提携店舗でクーポン券として使えるブックリスト「橋本まちゼミ Library NAVI」を作成し、橋本まちゼミを盛り上げた。・ ギャラリー展示では、女子美術大学大学院卒の芸術家「高橋萌奈さん」の陶芸作品を2回にわたり展示し、作品への感想を記入していただくノートを置き、鑑賞していただいた。 |
|--|---|

施策の方向	効果的・効率的な図書館運営
概要	<p>厳しい財政状況が引き続き見込まれる中で、図書館サービスを発展させていくため、効果的・効率的な図書館運営を図ります。</p> <p>これまで以上に、市民・関係機関・団体との連携・協働を推進するほか、図書館事業評価における分析の反映など効果的な事業展開による質の高い図書館サービスを目指します。</p> <p>また、図書館運営を支える専門的職員の計画的な確保に加え、レファレンスサービスや資料選定、各種図書館サービスの企画など図書館職員に求められる専門的能力をさらに向上させるための研修の充実を図ります。</p>
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民・関係機関・団体との連携・協働の推進 ・ 図書館事業評価の実施と図書館サービスへの反映 ・ 民間活力の効果的な活用による図書館サービスの向上 ・ ホームページや SNS などにおける効果的な情報発信など図書館プロモーションの推進 ・ 図書館、視聴覚ライブラリーの資料及び提供サービスの一体化の推進 ・ 専門的職員の計画的な確保・充実 ・ 図書館職員研修の充実
主な取組状況	<p>令和元年度分の各図書館の事業に対する評価を行い、運営の改善に努めた。</p> <p>また、運営の状況を積極的に提供するため、平成 29 年度から令和元年度分までの評価結果の公表に向けた準備を行った(令和 3 年 8 月公表)。</p> <p>市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館において、民間活力の効果的な活用として、専門事業者へ窓口業務等を委託し、その進捗管理を行いながら、専門知識やノウハウを生かした企画提案によるイベントや展示等を実施するなど、図書館サービスの向上に努めた。</p> <p>成果指標における利用者の満足度は 80.0%と、平成 30 年度の基準値から向上した。</p>

市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館において、雑誌スポンサー制度により 58 タイトルの雑誌を購入し、図書館経費の効率的な運用を図った。

図書館プロモーション推進の取組として、図書館ホームページでの定期的な情報発信に加え、Twitter・Facebook や、エフエムさがみのラジオ番組「図書館へ行こう！」を活用し、イベントや展示情報の発信、お薦めの本の紹介等を行った。

また、図書館の SNS や市の動画チャンネルを活用し、おはなし会等の動画配信を実施するとともに、図書館 YouTube チャンネルの開設に向けた準備を行った（令和 3 年 4 月開設）。

各メディアの発信回数

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ Twitter : 発信回数 226 回、フォロワー数 464 人・ Facebook : 発信回数 227 回、フォロワー数 602 人・ エフエムさがみ「図書館へ行こう！」: 放送回数 44 回 |
|---|

< 市立図書館 >

- ・ 図書館職員研修として、新規採用職員及び図書館に転入となった職員を対象とした図書館職員初任者研修を実施した。【再掲】

(4) 内部評価

【内部評価における評価の基準：B】

将来にわたり進化し続ける図書館を目標に、市立図書館において、全市的なサービスの検討等を行うとともに、各図書館において、効果的・効率的な図書館運営に努めながら、地域に根差したサービスを展開した。

評価の基準はBとした。概ね基本目標に沿った取組を実施したが、成果指標は利用者の満足度を除き概ね減少したことから、成果は限られていると判断した。

施策の方向に基づく取組として、現施設で実現可能な中央図書館機能の充実を図った。企画・統括機能については、ICタグ導入やメールレファレンスサービス等の全市的なサービスの検討を行った。

また、人材育成機能については、今年度は、講習自体が中止となったものの、例年職員を司書講習に派遣して有資格者の確保に努めるとともに、図書館初任者に対して研修を実施した。今後、施設の再整備と合わせた中央図書館への移行が課題であり、機能面においては、資料保存や資料選定の総合的なコントロール、中央図書館で行うべき専門的機能等の検討を進める必要がある。

地域図書館としてのサービスについては、各図書館が地域の活動主体と連携を図りながら、それぞれの地域特性を生かした事業を展開した。新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった取組もあったが、学校や近隣大学、地元の商店街等とは継続的に連携を図り、連携主体の特性を生かした事業が実施できている。

効果的・効率的な図書館運営の観点からは、図書館事業評価を毎年行い、業務の改善に努めるとともに、ホームページを初めとした情報発信により、図書館サービス等のPRに努めた。

また、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館において、窓口業務等を専門の民間事業者へ委託し、サービスの向上を図っている。

成果指標の状況として、利用者の満足度については、目標値並みの水準となったが、それ以外は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、基準値及び前年度との比較で減少した。地域図書館がそれぞれの地域特性に応じた取組を継続するとともに、それを支える全市的なサービスを検討・実施していくことにより、成果指標の改善につなげたい。

外部評価

1 総評

【外部評価における評価の基準：B】

各基本目標に記された内部評価により、図書館が計画に基づき取り組んだこと、またそれらに対し適正な評価を行ったことを図書館協議会として確認した。

施策の取組状況及び内部評価に基づいて示された各委員の意見を踏まえ、令和2年度の外部評価をBとした。その理由の概略は次のとおりである。

計画全体として、新型コロナウイルス感染症拡大下において、市民が安心して図書館を利用できる環境の整備に努めながら、基本目標に沿った取組を実施した点は評価できる。実施が困難となった事業についても、オンライン配信を行うなど、コロナ禍の状況に応じて新たなサービスを実施したり、実施に向けた検討を進めたりしている。

また、図書館だけでなく、公民館等図書室や博物館などの関係機関や、ボランティアグループなどの地域の活動主体と連携しながら、効果的に取り組もうと努めている。これらの実践により、図書館を継続して利用している市民の満足度向上につながったのではないかと考える。

一方で課題として、来館者数や登録者数など各成果指標の数値は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響もあり、一部の指標を除き大きく減少した。今後も感染症の動向を注視しながら各施策に取り組み、成果指標の達成を図っていただきたい。基本目標に基づく取組は、概ね実施できているものの、一部進捗が把握しにくい施策も見受けられた。コロナ禍で予定していた計画が実施できなかった側面もあると思うが、進捗の程度や今後の展開を内部評価において示すなど、積極的な情報公開、情報提供を行うことが望ましい。

また、図書館運営の視点からは、計画をより効果的に推進していく上で、中央図書館機能の確立・充実が重要課題であり、施設の再整備と合わせ着実に推進する必要がある。

個々の施策に関して、蔵書に関する満足度の向上、公民館等図書室や他組織との連携による図書館サービスの充実、各サービスや施設情報などに関する情報の積極的な発信、ICTを効果的に活用した利用環境の整備、近隣地域に留まらないより広域的なサービス展開など、具体的な課題や方向性が各委員から挙げられている。また、今年度試行したオンラインサービスの拡充は図書館に少なからず負担を強いる

ことになると思うが、負担軽減の仕組みも整えながら、オンラインと対面それぞれの良さを研究し、今後の取組の活性化につなげられると良い。これらの課題や利用者のニーズを踏まえ、公共図書館としての役割を模索しながら、計画的に事業を進めていただきたい。

2 各委員の意見

(1) 基本目標 1

【全体及び成果指標について】

- ・ 各施策の方向性のもと、世の中の動向や利用者の要望に配慮した様々な取組が実施できており、コロナ禍のなかでも適切な取組ができた結果利用者の満足度増加につながり非常に評価できる。
- ・ 「利用者の満足度」以外の成果指標については目標に対し実績値が下回ったが、コロナ禍のため仕方がないとする。次年度以降（コロナ終息後）の実績値に注視する必要がある。
- ・ 関連する成果指標「図書館 HP へのアクセス数」は課題である。資料検索へのアクセスは大幅増加とのことであり、HP の魅力もアップさせたい。
- ・ コロナ禍がまだ続くと思うので、安心して図書館へ行けるよう一層努力をお願いしたい。
- ・ 蔵書の充実等は予算との関係が直結する部分である。限られた予算の中で充実させなければならない困難もある。外部資金の活用といった観点からクラウドファンディングのような取組も試みるべきではないだろうか。

【施策の方向 について】

- ・ 一人あたりの貸出点数はほぼ横ばいであったこと、予約件数が増加していることなどから、利用者のニーズに大きな減少は見られず、それに相応に対応できていることは評価できる。
- ・ 様々なテーマでの展示が全館で 165 回となったことは、評価できる。自分の知らない世界の本に興味を持つきっかけとなり、貸出冊数の増加に寄与する取組であった。

- ・ 展示に工夫が見られ、利用にもつながっている。
- ・ 蔵書の活用について、蔵書冊数が横ばいの中、テーマ展示など工夫を凝らし蔵書を生かす努力が見てとれ、評価できる。
- ・ 橋本図書館で、視覚障害の方への読書支援や、他国の方にも利用しやすいよう、利用案内に多言語翻訳サイトを取り入れた事は高く評価できる。
- ・ 蔵書の充実について評価できる。
- ・ 蔵書構築の質の向上と、展示などより目に触れる工夫について評価できる。資料の借り方が滞在から検索に移行する分もあり、図書館内で取り組んでいるその時々展示などが図書館 HP でも楽しめるとういと思った。
- ・ 蔵書の充実という視点だけでなく、所蔵書籍をテーマ性のもとに配架する方向性を評価するが、市民利用者の立場からみると、配架の工夫が必ずしも一貫性を持っていないことを体験することがあるので、そこに統一的視野を持たれることと繊細な事務処理を求める。
(ex.テーマによる企画配架のために、検索端末にそのことが反映されておらず、結果として配架位置に目的の書籍を見つけられない。書籍分類のテーマ分析が適切でなく配架場所がわからない。市内作家の手による書籍が、市内作家の書架に見当たらないなど)
- ・ 蔵書の充実については、いわゆる蔵書密度を直視する部分が必要ではないかと考える。基本計画の作りがそうではないことは分かるが、市民アンケートで本の品揃えが重要とみなされている中で否定的評価が2割以上あることは重く見るべきと考える。
- ・ 利用者アンケートをみると、本の品ぞろえを重要であると答えている割合は多いが、本の品ぞろえが満足できると答えている割合が少ないのは課題である。

【施策の方向 について】

- ・ どの図書館もコロナ禍の感染対策をきっちり行い、また、各館がそれぞれのニーズにあった利用環境の充実に努められた事は高く評価できる。

- ・ 利用環境の窓床トイレなど、様々な利用者の声を拾いきちんと対応していることが評価できる。

- ・ コロナ対策として空気清浄機・図書除菌機を導入したことを高く評価。単に安全対策というだけでなく、コロナ感染防止への社会的教育効果が期待できる。業務等受託業者からの提案を迅速に実現したことは、市民・図書館・委託業者の間の信頼性構築に資するものとして好感。

また、橋本図書館が返却ポストを常時開けることにしたことも評価する。開館中であっても、すべての図書館で常時使用できるように求めたい。市民生活は多様であり、開館中の返却ポストの閉鎖は、わずかな手間と思われるかもしれないが、どちら寄りの志向なのかを明瞭にするものとする。

さらに、最寄り駅構内や郵便局内に返却ポストを設置している他市もあり、返却についても更に柔軟に対応することは可能と思われる。

- ・ 図書館の利用環境やサービスについて、コロナ禍において現状にあった対応がしっかりできていると感じた。図書館サービスの行き届かない地域への対応検討なども評価できる。

- ・ コロナ禍での環境として、職員にとって安心、安全な環境が整えられているかも重要な観点であるとする。

- ・ 利用環境の充実が課題である。

- ・ コロナ禍であることから、予定していた主な施策を実行するのは難しかったかもしれないが、それぞれについてどの程度実行できたかを示してもよいのではないかと。

【施策の方向 について】

- ・ 地域にある公民館等図書室との連携は評価できる。緊縮財政のなかで、市図書館の増設は困難と思われる。公民館等図書室は利用者の身近な場所にあり、利便性が高い。更に魅力的な図書室とするために、市図書館の支援が必要である。

- ・ 「より身近な図書館サービスの提供」について、サービスが十分に行き届いていない地域への対応やコロナ禍において来館が困難な状況も踏まえた非来館型のサービスを開始したことは、評価できる。
- ・ より身近な図書館サービスの提供は評価できる。
- ・ 図書館の利用環境やサービスについて、コロナ禍において現状にあった対応がしっかりできていると感じた。図書館サービスの行き届かない地域への対応検討なども評価できる。【再掲】
- ・ 外出が困難な状況下なので徒歩で行かれる図書室へのサービス提供について、研修等の支援や利用方法の検討など利用者と職員に対する配慮が評価できる。
- ・ 図書館サービスは図書の提供にとどまらない。図書以外のサービスをどのように充実させていくか、具体的な提案と実施を求めたい。
- ・ 公民館等の場所の利用だけでなく、他組織と連携してどのように図書館サービスを充実させていくかも検討してもらいたい。
- ・ 公民館等図書室とのネットワーク確立、情報交換の方向性を評価する。それを更に推し進めて、図書館機能としてのレファレンスサービスにおいて、各図書室が端末となれるぐらいの研修の充実と課題の共有が欲しい。
もともと、公民館は社会教育の実践の場としてあるので、更に市民に近づいたサービスとして、より能動的な情報収集力を発揮してほしいし、その役割を認識した図書館との連携であることを課題としたい。

【施策の方向 について】

- ・ 全館通して、コロナ禍の中様々な工夫をして取り組まれている事はとても高く評価できる。
- ・ 多様な利用者に向けたきめ細かいサービスの充実が課題である。

- ・ コロナにより中止になったものを形態を変えて実施する、参加型の関わり方を持つなど、多様な世代や利用者に対し図書館を継続して楽しめる工夫が評価できる。

- ・ ユニバーサル・デザインを意識した図書館づくりとシニアから幼児まで多年齢へのサービス提供の工夫をされていることを評価する。ユニバーサル・デザインは、障がい当事者にとってだけでなくあらゆるひとにとっての「心地よさ」を実現するものとして想像力を豊かにして創意工夫を課題としてほしい。

社会的認知度の高まった発達障がい児・者への理解（必ずしも静かにできないし、マスク着用も当たり前ではない）を基にした施設運営の工夫を求める。当事者からの要望は、実は、耳に届きにくい。我慢して耐えているのは、常に障がい当事者である。「見つけやすいように分類を細分化し、分かりやすい表示に変更した」(の取組評価における表現)とは、どこからの目線で断言しているのだろう。ささやかな違和感を抱いた。

【施策の方向 について】

- ・ 国立国会図書館デジタル化資料の活用やデジタルライブラリーなど ICT の活用に積極的に取り組んでいることが評価できる。日頃から図書館に関心を持つ人は情報を得られるかもしれないが、今後はもっと広く周知されることが課題と思われる。
- ・ ICT を活用して、サービスの向上に努めたことは評価できるが、主な施策として掲げた 3 つの「検討」の結果はどうなったか、今後どう展開するかにも触れてほしい。
- ・ ICT を活用したサービス向上については、利用者アンケートで Wi-Fi 環境の整備、ICT を使ったスペースが図書館に積極的に取り組んでほしい項目となっているので、それらを参考にサービス計画を組み立てて実施してほしい。
- ・ オンラインデータベースの順調な運用について評価する。今後は更に利用が増加するものと期待している。懸念として、図書館がオンラインでどこまで可能性を拡大したかは、市民にとって実感の薄いところである。実際にどのようなことが可能になったかについて、具体的な凡例を紹介しながら周知することを課題と

してほしい。レファレンスにしても、一般市民にどこまで利用できるか、あるいは可能かの「見える化」から始めてほしい。

(2) 基本目標 2

【全体及び成果指標について】

- ・ 市民や地域に活力を与えるためにも、施設の情報を広く知ってもらう必要があると思う。ホームページや SNS の活用を図っているのはよく見て取れるが、見辛さや検索のし辛さを感じる。活動報告や告知に利用するだけでなく、連携や身近な生活情報など、また見たくなるホームページや SNS の展開を図るべき。

【施策の方向 について】

- ・ 質問回答サービスを中心にさまざまなレファレンスサービスの充実に対応し、市民の課題解決支援を行っていることは評価できる。
- ・ 「課題解決支援の充実」について、間接サービスとしてレファレンス協同データベースや新聞記事見出し登録を継続的に行うなどして、利用者が自ら調べる環境の充実に努めたことは評価できる。
- ・ 課題解決支援の充実は評価できる。
- ・ 市民の生活や関心に寄り添い不安を解決できるような情報提供の実施が評価できる。
- ・ 橋本図書館のマンツーマン OPAC 講座やビジネス支援相談会のオンライン開催は意欲的な取組であり、高く評価できる。
- ・ パスファインダーの作成をはじめ、レファレンスツールの充実に努めたことは評価できる。他方、作成したパスファインダーが 3 つであるのは少し物足りない。また、内容は更新されているか。インターネットで公開されているパスファインダーを見る限りでは古いものも散見される。ウェブサイトでの見せ方にも工夫が必要か。
- ・ 社会教育を担う図書館の課題解決支援機関としての役割の自覚とそのレファレンス機能の充実に向かう姿勢を高く評価する。そのためには、この視点から「基本目標 1

施策の方向」の関連として公民館活動との協働の可能性を更に拓いていただきたい。その視点で考えると、レファレンス件数として電話やメールでの利用の件数を数えるだけの結果把握は十分とは言い難い。レファレンスのデータベース化を進めるのであれば、利用者の了解を得た上で、レファレンス内容の公開をHP上で行うことなども有用ではないだろうか？ オンラインデータベース化が進めば進むほど、図書館のレファレンス機能への期待は高まることを理解して、社会的なその意義の認識を更に深めていただきたい。

「テーマ別調べ案内」として、A3サイズ両面印刷二つ折りながら、図書館が独自の社会的課題のレファレンス解決のプリントをされていること（相模大野図書館）に敬意をもって評価する。コロナ禍の困難な時代に起業をテーマにした活動をしていること（橋本図書館）にも注目する。また、市内に複数の大学を擁していることを生かして大学との協働（図書館だけでなく専門学部・学科とも）を図ることを更に進めていただきたい。

- ・ 市内近隣大学との連携について、蔵書の更新がうまく行われなかったためか？専門的な調べができないイメージがあった。近隣大学との連携はとても評価できる。まだ周知されていないと感じるので、利用についての発信に努力してほしい。

【施策の方向 について】

- ・ 行政テーマと連携した情報提供や発信は評価できる。
- ・ 自ら取得する気持ちがないと得にくい行政の情報を、多様な人通りがある場を上手に利用しているところが評価できる。SDGs は学校でも企業でも取組が盛んになってきているので、関心を高められるような行政と連携した取組が評価できる。
- ・ こうした取組によって、庁内からの問い合わせや依頼が多いことは評価できる。また、職員研修所との連携も望ましい。これらのサービスへの満足度などを確認するとともに、更なるニーズ（どのようなサービスを求めているか）を掘り起こすなどして、今後の発展に取り組んでほしい。
- ・ 行政に密着した情報収集と提供は、民主主義の下支えと社会的市民の育成の視点から歓迎、評価する。連携は、協調に留まるのみならず、提案であり検証であるべき。（あくまで、意見を誘導しようというものではないが）喫緊の課題である「行財政検討プラン」「相模原人権条例」から「リニア建設」まで、事実を知るための情報収集が

信頼性をもって情報提供できる市民の図書館であってほしい。「市民のためのデータバンク」であることを課題とする。

相模原市の文化事業「相模原総合写真祭」(フォトシティさがみはら)は「さがみはら写真賞」創設から20年の実績を持ち、かつ、今般「江成常夫賞」を創設。日本の写真界にとっても然るべき役割を果たしてきた、相模原市が取り組む大切な文化事業と言える。その文化事業が図書館の蔵書や運営に反映されていないのは何故ですか？写真関連書籍、郷土の日本有数の写真家・江成氏の蔵書、フォトシティさがみはらの図録(21年分の)が見つけれないのは、課題と考える。

【施策の方向 について】

- ・ 地域資料の収集・活用は地域図書館の大事な使命の1つである。これに積極的に取り組んでいくことは評価できる。
- ・ 地域資料の収集や情報発信としての展示などを行い、地域の文化継承を行った事はとても高く評価できる。
- ・ 地域資料の収集・活用・継承は評価できる。
- ・ 博物館との連携、図書館や相模原市の歴史をわかりやすく発信するなど、子どもから大人まで相模原市に関心を持ち、誇りを持てるような取組が評価できる。
- ・ 「地域資料の収集・活用・継承」の施策課題に関する取組の中で博物館との連携取組については旧来の図書館のカテゴリーを超えた取組として評価したい。

このような図書館と博物館や美術館、大学等との取組の拡大発展は文化施設としての活動を強化する。将来的には文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」等への応募等も可能であり外部資金の獲得につなげる観点もある。是非このような取組を発展させていただきたい。
- ・ 情報発信については旧来の情報発信活用については努力しているようであるが、Twitter等のSNSももっと活用する必要があるのではないだろうか、相模原市立図書館としてのアカウントを運営しているが、フォロワーも759名と少なく利用者や潜在的利用者に十分情報が届いていないのが現状である。他施策に対しても情報の発信周知という意味で大きな武器になるものであるのもっと活用して欲しい。

- ・ 積極的に地域市民活動資料を収集され、また、データベース化に尽力されていることを「市民の図書館」である果実として高く評価する。特に、市民活動にまつわる印刷物は簡易印刷に頼るものが多く、部数も限られていて、内容の意味や意義が大きいにもかかわらず、その情報は紛失されやすい。

そこで、特に地域市民活動の収集資料の電子化を図書館の使命と位置付けて、市民のための資料・記憶を保存していただきたい。できれば、HPからの検索も可能にしてほしい。令和3年は、相模原町誕生80周年、令和4年は戦車闘争50周年にあたる。まちの記憶＝歴史がいかに貴重かは、現在の社会情勢からも教えられるところ。博物館や公文書資料館から公民館まで、知のネットワークの中核として、地域資料の収集・活用・継承を期待したい。

【施策の方向 について】

- ・ 本や人との出会い、交流の創出は評価できる。
- ・ リアルな開催が難しい中、オンライン配信など新たな取組も積極的に取り入れ交流の場を提供したことが評価できる。外出困難な人も利用できるなど対面とは違ったメリットは必ずあると思うので今後の研究に期待します。

- ・ コロナ禍における創意工夫を高く評価する。叶うなら、コロナ禍であったから、これができなかった、ではなく、コロナ禍をきっかけとして、発想の転換を行い、アフター・コロナを見据えた新しい取組を創出できないか。

どれだけの人に図書館に足を運んでもらうか、から、どれだけの人が、図書館の知を信頼し、いざとなれば拠り所にしようとしているか、を構築する創意工夫はできるのではないか。

紙の本の大切さ、図書分類の貴重さを超えて、アフター・コロナの時代に知の発信拠点になることを目指してはどうだろうか。

(3) 基本目標 3

【全体及び成果指標について】

- ・ 全体として、計画していた目標を達成できなかったかもしれないが、代替手段を講じるなど、安心、安全に配慮した活動が実現できていることは評価できる。

- ・ コロナ流行に配慮して子ども向けの取組について中止や形を変えた取組で苦慮をしている現状があるが、配信などの新たな取組も生まれている。是非図書館のあらたな取組として発展させて欲しい。

- ・ 施策の方向 ともに、これまでの市内図書館と取組と努力を市民利用の立場から高く評価する。図書利用を通じてつながりが生まれた体験をもつ者として、感謝をもって、更なる継続を願う。ことに、「ヤングアダルト書籍」という呼び名は、本図書館から教えられたし、橋本図書館の中・高校生の取組については、敬意をもって評価する。「Wisdom Tree」など、素晴らしい。

図書館は、「学校に行けないなら図書館において」と呼び掛けた図書館の例にみるまでもなく、子どもたちの居場所になりうる。読書は人生の伴侶であって、啓蒙し教唆するものだけではないと考える所以でもある。発達障がいや多動であっても、利用可能な図書館であってほしい。(奇声を上げて走り回ることが許されてもいいではないか。そのための工夫があれば、と願います。)

また、紙の書籍の運用にばかり、あるいは、図書館に通うことばかりにこだわらず、レファレンスを体験してもらい、HPをつくる、映像や音声編集を行う、SNSで発信を行うなど、子どもたちのための多様な「知の体験」を創出する図書館になってほしい。市内大学との協働、読書に関連したワークショップの出前活動など、更に市民の中に出ていく能動的な企画も期待する。

現在の社会状況のなかにあって、市民生活の格差の拡大も更に実感するところ。子どもたちの現在を、格差抜きに語ることはできないことを考えると、格差是正に視点を置いた試みも、また課題として欠かすことはできない。(図書館を核とする無料塾運営から、場として提供など実現できないでしょうか?)

【施策の方向 について】

- ・ 「子どもが本にふれあう機会の充実」について、市内小学校・義務教育学校への新1年生向けブックリストの配布依頼、児童書リサイクル事業等の子どもが本や読書に触れる機会の充実に努めたことは評価できる。
- ・ 子どもが本にふれあう機会の充実について、全体に努力が感じられ評価できる。授業や地域に関連した学校図書支援セットの充実や利用促進するなど更に学校との連携を図り、本のプロフェッショナルとして図書館の利用価値をアピールしてほしい。

- ・ 相模大野図書館の「本のおたのしみセット」や「期限票くじ引き」など、滞在時間の短縮というコロナ禍の子ども達の安全を考えたアイデアは、とても高く評価できる。
- ・ セカンドブックの配布やお楽しみセットなど、本に触れやすい機会を設けていることが評価できる。
- ・ 2021年の調査によれば、セカンドブックを実施している自治体は50と少なく、本に触れ合う機会を充実させるために、積極的に取り組んでいる点は評価できる。
- ・ 子どもの読書環境の充実、ブックリストの配布は評価できる。
- ・ 施設見学やブックリストなど図書館に足を運ぶ取組は評価できるが、実際の効果はどのような形で判断するのでしょうか。
- ・ 子どもがたくさん本にふれあう機会の充実が課題である。
- ・ 行動範囲が限られる小学生に対して、身近な公民館等図書室に魅力を感じるか？又は、蔵書の多い図書館の中継地点として利用できているかなどを含めて、利用促進にはまだ課題があるように思う。
- ・ 公民館等図書室の利用促進、中学生・高校生の活動支援・居場所づくりについては、ほぼ図書館の取組の紹介となっている。狭隘な延床面積の中で公民館等図書室をどのように位置づけるかの検討が必要ではないか。

【施策の方向 について】

- ・ おはなし会などの開催が困難ななか、工夫しながら読書の楽しさを伝える取組を推進している点は評価できる。
- ・ 読書の楽しさを伝えあう取組の推進は評価できる。
- ・ 読書の楽しさを伝える大きな役割でもあるお話し会が中止になる中、オンラインや家庭で楽しめるなど方法を変えた取組が評価できる。

- ・ お話会などについて、本を作る人間としては、本を読むだけではなく、楽しむ、感じる、考える、想像する、伝え合うなど、本を立体的に利用してもらうことを嬉しく思う。イベントがコロナ禍で中止になる中、展示での展開に置き換えたりオンラインでの実施を試みるなど、努力が感じられ評価できる。
- ・ 参加型のイベントは楽しさが伝わりやすいので、更に参加者が増えるよう口コミを含めた周知が今後の課題だと思う。

【施策の方向 について】

- ・ 子どもの読書応援隊の支援に課題がある。
- ・ ボランティアと協力して動画配信をするなど、ボランティア身の活動を継続したことも評価できる。(活動が止まると気持ちが離れやすい)
- ・ 一番身近な読書応援隊は保護者なので、家庭への支援を施策として取り組んでいることが評価できる。
- ・ お話会などについて、本を作る人間としては、本を読むだけではなく、楽しむ、感じる、考える、想像する、伝え合うなど、本を立体的に利用してもらうことを嬉しく思う。イベントがコロナ禍で中止になる中、展示での展開に置き換えたりオンラインでの実施を試みるなど、努力が感じられ評価できる。【再掲】

(4) 基本目標 4

【全体及び成果指標について】

- ・ 全体的に、リアルな利用は今までと同じだが、オンラインなど新たな利用の仕方が加わるために、内部では検討することや実務が増えると思われる。それをうまく仕組化しながら関わる人たちが楽しむことができれば、利用者にも伝わり図書館全体が活性化するのはと感じました。
- ・ 全体的な取組は評価できるものの、取組状況に濃淡が見られる。例えば、施策の方向は、施設の現状に依存するものの機能として充実させられるものもある。また、施設の再整備の計画が進んでいることから、中央図書館的機能の確立・充実に向けての検討は急務と言える。その進捗も併せて明示してほしい。

・ 様々な施策を3点の方向性のもと様々な取組を行ったことは評価できるが、根本的に将来にわたり、図書館を進化させ続け、相模原市民の文化的な生活基盤を確保するためには予算、人員、施設の拡充は必須である。市長や議会に対して市民を代弁して図書館としてどのような要望をして、どのような判断をされてきたのかが事業評価からは見えてこない。図書館の事業評価が市民に対してなされるものであるとするならばそのような記載があったほうがより誠実なのではないだろうか。次回評価から言及を期待する。

・ これまでの基本目標の評価の全体にかかわる課題として「将来にわたり進化し続ける図書館」の基本目標に沿って、その施策について総合的に評価するところをまとめます。

厳しく申せば、課題として「将来にわたり進化する図書館」をどのようなものとイメージされているかが見えてきません。どんな図書館になりたいですか？わたしにとってのイメージは明確です。「市民のための知の拠点であり、市民とともにある図書館」です。書籍のオンライン化が更に進めば、蔵書数や蔵書整理の比重は減り、どのように書籍文化の知を集約し、市民に提供し、さらには、知的に市民をけん引できるかが課題になると考えています。何よりも求めたいことは「レファレンス機能の充実」です。そのためには、社会（まち）への認識力をたくわえ、美術館・博物館のキュレーターに匹敵する実力をを持った司書さんの助けが必要です。

ICTの普及によって、各自が家庭で調べることが常態となりました。今後、そのノウハウも更に拡大していくでしょう。それでも、得られない「知」が図書館にはあります。そのことを教えてくれるきっかけのひとつがHPだろうと考えています。しかし、本図書館HPは、まったく魅力的ではありません。（データの更新も遅いようです。手順に不備があるのかもしれませんが、マイページの情報も正確に反映されません。データ試行をされておいででしょうか？）SNSとの連携もなされていません。

twitterのフォロワー数も1市の図書館として、決して多くはないでしょう。（2月24日現在 3フォロワー 766フォロワーでした）

相模原図書館の発祥について、調べたところ「GHQの民生教育施策の一つに図書館施策」があり、「CIE図書館」のひとつとして生まれたものが現在に継がれたものと知りました。二度と戦争を起こさない民主主義の砦・知の拠点として期待された図書館だったと理解できます。HPやSNS発信が様々な問題を引き起こす可能性がないわけではありませんが、「知の砦」として、信頼性を担保する運営委員会方式などで体制を整え、より魅力的な発信を行い、特に社会教育を担う雄として図書館を核とした、博物館、公文書館、文化財団とネットワークを結び（可能なら児童館、児童センター、

学校や大学などとも、文字通り市民のための直接検索可能なデータベースとなることを期待します。

また、ユニバーサル・デザインによる施設運営も重要です。図書館の施設運営が社会的規範を形成することが可能だからです。ICTの進化は、アクセシビリティの進化をもたらしました。障がい当事者のために、と考えるのではなく、障がいの有無を超えてその可能性を拓く積極的な変化を期待します。Uni-Voice 文字コード、UD トークアプリの活用など、そのノウハウに関心をもって、また、障がい当事者団体との情報交換もより丁寧に取り組んでいただくことを希望します。図書館事業には、更なる可能性が内包されていることを指摘して、運営への想像力不足をマイナスと挙げて、基本目標における施策の総合評価を「B」とさせていただきます。

- ・ 全体にどう評価していいのか判断できない。
- ・ 書籍の検索などで利用者が便利になる発展や、様々な役割とつながるなど必要なことかもしれないが、表面的なことだけ、民間でもできること、ではなく、公営ならではの進化を遂げてほしい。
- ・ 調べにくいからこそ未知の本との出会いがあるなど今までの図書館の良さも考慮に入れてほしい。

【施策の方向 について】

- ・ 中央図書館の確立・充実の評価できる。
- ・ 中央図書館が機能の充実を全市で捉え地域図書館や公民館等図書室を支援する、と役割分担することがそれぞれの質の向上につながると思われ評価できる。
- ・ 専門的人材による支援で機能を充実させる施策は、図書館が今後も発展し続けるためにも必要だと評価できる。
- ・ 職員の専門性を高める研修など人材育成は評価できる。

【施策の方向 について】

- ・ 全館を通して、地域の団体や学校、商店街やボランティアなどと連携した事業展開は、とても高く評価できる。

- ・ 地域図書館における地域に根差したサービスの充実は、まだ課題が多い。
- ・ それぞれ地域性を活かした取組が評価できる。他地域にも当てはまるものがあれば繰り返すことで学びも深まり更に良いと思う。
- ・ <全館>で記した取組状況は、その表現があいまいである。具体的な記述を求めたい。
- ・ 各館それぞれの取組は工夫もされていて評価できるが、立地する近隣地域へのサービスが中心になっている印象を受ける。公民館等図書室等も含め、地域館を中心にどのように対象となる広域地域のサービスを実施しているか、充実させるかも触れてほしい。
- ・ 相武台分館のサービス継承は、施策の方向 と関連する課題である。

【施策の方向 について】

- ・ 「効果的・効率的な図書館運営」について、ホームページや SNS などにおける効果的な情報発信など図書館プロモーションの推進を行ったことは評価できる。
- ・ SNS を活用するのであれば、フォロワー数が増えるようになる事を今後期待したい。
- ・ 効果的・効率的な図書館運営は、評価できる面とそうでない面もある。
- ・ より質の高いサービスを継続できる仕組み作り、幅広い利用者や多様な変化にしっかり対応していることが評価できる。
- ・ 既存の利用者からは満足として数値に現れているので、今後はその分母を広げることが課題と思われる。
- ・ 「令和元年度分の図書館事業に対する評価を行い、運営の改善に努めた。」とあるが、どのような改善につながったかの具体例をいくつか明示するとよいのではないか。
- ・ 雑誌スポンサー制度によって図書館経費の一部を捻出するなどの活動は評価できる。他方、協力してもらっている企業等に、どのように還元できているかも、今後これを継続するうえで、また地域を支える図書館の使命としても重要である。

基本統計（参考）

図書館の活動に関する基本的な統計数値及び前年比は、以下のとおり。

	項目(単位)		令和元年度	令和2年度	前年比(%)
1	市人口	(人)	722,252	722,715	100.6
2	職員数(うち司書・司書補)	(人)	31(14)	31(10)	100(71.4)
3	資料費決算額	(千円)	66,158	67,384	101.9
	市民一人当たり	(円)	91.6	93.2	101.7
4	図書購入費決算額	(千円)	51,163	52,146	101.9
	市民一人当たり	(円)	70.8	72.2	102.0
5	図書受入冊数	(冊)	37,966	36,228	95.4
6	図書除籍冊数	(冊)	36,990	39,691	107.3
7	蔵書冊数	(冊)	1,457,447	1,454,486	99.8
	各図書館	(冊)	1,017,188	1,017,382	100.0
	公民館等図書室	(冊)	440,259	437,104	99.3
	市民一人当たり	(冊)	2.0	2.0	100.0
	蔵書更新率	(%)	2.6	2.5	96.2
	蔵書回転率	(回)	1.5	1.3	86.7
8	雑誌タイトル数	(誌)	784	774	98.7
9	AV資料点数	(点)	39,205	38,775	99.7
10	開館日数(各図書館当たり)	(日)	259	240	92.7
11	登録者数	(人)	173,177	160,746	92.8
	登録者数(市内在住者)	(人)	147,592	137,881	93.4
	市民登録率	(%)	20.4	19.1	93.6
12	来館者数	(人)	1,628,561	1,111,567	68.3
13	貸出者数	(人)	701,109	582,738	83.1
	貸出点数	(点)	2,316,641	1,954,085	84.3
	各図書館	(点)	1,623,125	1,337,970	82.4
	公民館等図書室	(点)	693,516	616,115	88.8
	市民一人当たり	(点)	3.2	2.7	84.4
	登録者一人当たり	(点)	13.4	12.2	91.0
	貸出者一人当たり	(点)	3.3	3.4	103.0
14	予約件数	(件)	533,157	547,461	102.7
	登録者一人当たり	(件)	3.1	3.4	109.7
15	登録団体数		301	282	93.7
	団体貸出冊数	(冊)	11,321	9,942	87.8
	一団体当たり	(冊)	37.6	35.3	93.9